

## 1. 景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)		一般小売店 [酒]（経営者）	単価の動き	・緊急事態宣言が10月1日から解除されたことで売上が回復基調にある。特に高額商材の販売量が増えている。客先の飲食店では1人の客が1回で10万円以上使うといった話も珍しいことではなくなっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたことで、旅行や文化サークルなどが再開されるようになっており、人の動きが活発化している。それに伴って客の来店頻度も高くなってきている。関連商材の売上も増えている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたことで景気はやや良くなっている。ただ、前年と比べると来街者数、来客数は減っている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・行動制限や時短営業が緩和されたことで徐々に入出が増え始めた。しかしながら、様子をうかがって恐る恐る出掛けているのが現状であり、一気に回復という雰囲気には程遠い。宴会の予約も顕著にみられるようになってきているが、少人数のグループばかりであり、店側も細かい対応を求められるなど、大変そうである。また、休業や時短営業によってアルバイトを解雇した飲食店がほとんどであるため、いざ忙しくなっても人手不足で対応できないことも多い。複数の店舗を経営している飲食店では、人手不足でいまだに一部の店を休業している。さらに、商材や燃料の価格高騰や品不足、部品不足などによって、店舗にも多大な影響が生じている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・10月の前年比をみると、9月と比べて改善傾向がみられる。10月に入り、緊急事態宣言が解除されたことで来客数が増えており、気温の低下に伴って防寒衣料へのニーズも出てきている。また、緊急事態宣言中は自粛していた催事イベントについても、新型コロナウイルスの感染対策を十分に採った上で実施できるようになったことで、来客数の増加につながっている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたことで、来客数が伸びており、買上客数も増加傾向にある。
		百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・催事を開催できたこともあり、来客数が前年を超えた。長らく不調だった衣料品にも動きがみられる。
		百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・直近3か月の来客数の推移をみると、8月が前年比83%、9月が同91%、10月が同96%となっており、着実に上向きになってきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除後、気温が低下していることもあって、衣料品の動きが良くなってきている。また、修学旅行などの学校行事が再開していることで、トラベル関連商材が大きく伸長している。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減ったことで、客の動向が変わっており、来客数にも反映されつつある。景気はこのまま上向きになるとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・飲食店向けの販売を行っている店舗も多いため、酒類提供に係る時短要請が緩和されたことなどで、酒類を中心に販売量が増えている。景気は回復基調に転じている。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・金曜の夕方や夜間、土日の日中の来客数が緊急事態宣言の期間中と比べて増えている。飲み会帰りや行楽客とみられる客が明らかに増加している。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年と比べて、来客数も客単価もアップしている。10月後半からは暖房機の販売にも活気が出てきている。
		自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着きを見せていることで、来客数が前月と比較して5～10%増加してきている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・行動制限が解除されたことで、客に動きがみられるようになりつつある。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・地方自治体の需要喚起策を活用した予約が堅調に推移している。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたことで、航空機利用の団体旅行が回復し始めた。また、観光需要喚起策として、北海道の新しい旅のスタイルや各市町村の支援策も再開され始めており、アフターコロナに向けた動きが拡大してきている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、新規感染者数が少なくなったことに加えて、北海道独自の旅行代金割引制度が再開されたことで、来客数、新規予約客のいずれも増えてきている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除後、来客数や問合せ件数が増えてきている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、10月1日から飲食店の酒類提供が時短要請付きで認められることになり、15日からは時短要請もなくなったことから、夜の人出が戻りつつある。タクシーの利用も増えており、1台当たりの売上も新型コロナウイルス発生前の水準に戻りつつある。ただ、乗務員不足でタクシーの稼働が前年より落ち込んでいるため、会社全体の売上は前年比マイナス5%となっている。新型コロナウイルス発生前の水準と比べると30%のマイナスとなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除された直後から、夜間のオーダーが増えてきている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、新規感染者数も抑えられていることから、徐々にではあるが、夜間の利用が回復してきている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除されてから、観光客を始めとした客の動きが若干上向き始めている。第6波を懸念する動きもあるが、このままの状況が続くことになれば売上の増加が期待できる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除されたことで、週末の夜の人出が徐々に回復してきている。ただ、平日の夜の状況は変わっていない。タクシーの稼働状況についても前月の30%ダウンから10%ダウンまで改善しているが、衆議院選挙の告示に伴って人出が落ち込む傾向がみられた。
		観光名所（従業員）	お客様の様子	・明らかに観光客とみられる人を目にする機会が増えてきている。また、年配客がメインの国内団体ツアーが少しずつ復活してきていることも復調の兆しと捉えている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、緊急事態宣言期間中にため込んだ金を少しずつ使い始めている傾向がみられる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたものの、当地を訪れる客の数は増えていない。当地を訪れる客の多くが高齢者ということもあり、年金受給月である10月には冬物衣料などの購入に伴って、来街者数が若干増加すると見込んでいたが、街中を見渡す限りでは増加していない。また、道内からの旅行者とみられる車もまばらであり、土産店や交通事業者においても売上増加の兆候はみられない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・10月の売上は前年比81.9%であった。前々年比でみると9月は21.7%であったものが、10月は35.1%となっていることから、景気はやや良くなっている。ワクチンの接種率が70%に達したことで隣接市からの客も少しずつ戻ってきている。
		スーパー（店長）	それ以外	・8～9月と比べると回復してきているが、緊急事態宣言の発令によって大きく落ち込んでいたものが元に戻っただけである。来客数は前年並みの水準まで回復しておらず、こうした状況はしばらく続くことになる。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除に伴って、百貨店、外食、飲食店の利用客が増加している一方で、食品スーパーの利用客が相対的に落ち着いてきている。特に好天となった週末はそうした傾向が顕著にみられた。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・自粛期間が明けて外出や出勤の機会が増えてきていることで、サイズが合わなくなったスーツを仕方なく買い換える客が増えている。ただ、客単価は上がっていないため、現在の販売状況は一過性のものとみられる。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・9月決算のため、10月の販売量が落ち込む傾向にあるが、今年は8割くらいの水準にとどまっており、流れとしてはそれほど悪くないが、特別良くもない状況にある。ただ、来場する新規客が伸びていないことから、新型コロナウイルスの影響を考慮しても来客数が少なかったというのが正直なところである。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・自動車業界において生産遅れがみられるものの、新車受注は前年並みで推移している。中古車は下取り台数が減少しているが、限られた車両のなかで販売をつなぐことができおり、前年並みで推移している。
		その他専門店 [ガソリンスタンド](経営者)	販売量の動き	・原油価格の高騰に伴う石油製品価格の高騰により、1回当たりの販売量が減少している。
		高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・2年前の5割ほどの売上となりそうで、景気はやや悪い。しかしながら、客は着実に戻ってきている。緊急事態宣言が解除され、まん延防止等重点措置も適用されていないことから、ランチの売上が例年の6~7割となる日もみられるようになってきた。ただ、夜の販売量ははまだ回復していない。コロナ禍以前に利用の多かった熟年層の客もかなり少ないままである。また、予約客が主流であり、振り客が少ない。これまでのマイナスも大きいため、従業員を簡単に増やすことはできないが、来客数の多い日は人手不足で料理提供に遅れが出るなど、客に迷惑を掛けていることから、来春以降はパートなどを増やすことも検討している。
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・緊急事態宣言期間中と解除後で客の動きに大きな変化はみられない。ワクチン接種の効果で新規感染者数が急激に減少したとはいえ、感染が再拡大することへの危機感も強く、様々な対策を講じてもすぐに景気が良くなるとは考えにくい。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除されたものの、予約の伸びの鈍い状態が続いている。北海道による旅行代金割引制度が始まったものの、利用できる地域が限定されること、割引原資の割当枠が小さいことから、業績を回復させるほどの効果は感じられない。引き続き厳しい集客状態となっている。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・景気は悪いまま変わっていない。衆議院選挙を控えて、経済が止まっている状態にあるため、販売量も増えてこない。
		美容室(経営者)	販売量の動き	・売上は3か月前とほぼ変わっていない。
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスが徐々に終息してきているため、先行きについて明るい兆しがみられるようになってきているが、大きな影響を受けている業種と好調な業種がみられるなど、業種によって状況が異なるため、全体的な景気は変わっていない。
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・現在、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることもあり、客が安心してモデルルームに来場するようになり、ようやく普通に商談ができるようになってきた。やはり不動産などの込み入った商談はリモートよりも対面が望ましい。
		商店街(代表者)	販売量の動き	・春からの天候不順の影響で果物の不作があちこちでみられることから、景気はやや悪い。また、原油価格の高騰に伴って、あらゆる原料の仕入価格が上がり始めていることもマイナスである。
		スーパー(企画担当)	販売量の動き	・9月末までの緊急事態宣言が解除され、自粛生活から解放されることで、経済活動が活発になり、それに伴って内食需要が落ち込むことを想定していたが、実際には販売量が増えている。ただ、来客数は前年をやや下回っており、客が自粛生活を継続しているためとみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（役員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減していることで、人の動きが活発になってきた。外食をする人が増えていることで、内食需要が落ち込んできている。
		スーパー（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う来客数の減少や買上頻度の低下が前年から継続しており、底がみえない状況にある。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたが、客の動きはまだまだ鈍い。また、たばこなどの値上げもあったため、若干ではあるが販売量が落ち込んでいる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注状況は3か月前と余り変わらないが、新型コロナウイルスの影響でメーカーの減産が続く、納車に遅れが生じていることから、売上が40%ほど減少している。
		その他専門店【医薬品】（経営者）	単価の動き	・コロナ疲れがあるのか、景気回復につながらない負の力が感じられる。厳しい状況にある。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・景気はやや上向きになってきている。新型コロナウイルスの新規感染者数が激減していることで段々と人の行動が活発になりつつあり、修学旅行客もみられるようになってきている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・10月から営業を再開しているが、元の状態に戻るような動きはみられない。営業しないよりは営業した方が良いことは確かなため、少しでも前向きに考えていきたい。
		タクシー運転手	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたとはいえ、消費者の行動はかなり慎重であり、前年の緊急事態宣言解除直後のような消費急増がみられる状態にはなっていない。
		通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・価格を武器にした競合相手への乗換えが北海道全体で進んでおり、通信端末の契約者数が大きく落ち込んでいる。
		美容室（経営者）	それ以外	・原油価格の高騰や最低賃金引上げの影響で、中小企業はどんどん追い詰められている。
		その他サービスの動向を把握できる者【フェリー】（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスが終息してきていることの影響がほとんどみられない。例年と同様に観光シーズンのピークを過ぎたことで輸送量が落ち込んできている。
		x	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き
企業 動向 関連  (北海道)		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・10月の販売量は前年比マイナス2%となっているが、3か月前の7月の販売量は前年比マイナス39%であったため、景気はやや良くなっている。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の解除によって人流が活性化しているため、景気はやや良くなっている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が一旦落ち着いたことで、これまで留保していた案件の再始動やコロナ禍後の環境変化に対応した新規案件など、足元の客の動きが活性化している。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・緊急事態宣言の解除によって、これまで制約の多かった接触型産業を中心に経済活動が活発化している。また、北海道の新型コロナウイルス新規感染者数が減少していることで、消費マインドが改善しており、サービス消費が回復する動きもみられる。道内景気は、コロナ禍の影響が大きかった3か月前と比べてやや良くなっている。
		その他非製造業【鋼材卸売】（従業員）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、若干ではあるが、見込みよりも実際の売上が上回る状況が続いている。いまだ不安視していることもあるが、市場に動きが出てきていることから、景気はやや良くなっている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上は3か月前と比較して特に変わっていない。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・工事の追い込み期に入り、今年度の完工高が積み上がりつつあるが、コロナ禍のなか、思うように受注が伸びていない状況にある。完工高、利益のいずれも年度計画に届かない状況に変わりはない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・見込みほど受注量が落ち込んでいないことから、景気は変わらない。
		司法書士	取引先の様子	・10月に入り、緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの新規感染者数も減少するなど、一安心できる状況になったが、1日で景気が回復することにはならないため、景気は変わらない。ガソリンや食料品の値上げが相次いでいること、暖房が必要になる季節を迎えて灯油が値上がりしていることが、家計への打撃となっている。我慢の状況がもう少し続くことになる。
		司法書士	取引先の様子	・新規感染者数の減少に伴って緊急事態宣言が解除されたこと、ワクチン接種が幅広い年代にまで浸透していることなどから、以前と比べて観光地では多くの人を見掛けるようになってきた。それに伴い観光業が主要産業である当地において徐々に景気が良くなるのが期待しているが、今のところそうした動きを実感できない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・北海道内の建設工事は、公共工事やそれに準ずる関連工事が順調に執行されていることもあり、コロナ禍にあってもそれほど落ち込まずに推移している。今後も例年どおりの傾向で推移するとみられる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上はほぼ前年並みで推移している。今後についても当面大きな伸びは生じないとみられる。
		建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・仕事量の少ない状況は変わっておらず、景気はやや悪い。改善の兆しもみられない。また、新型コロナウイルスの影響で工場の生産遅れが生じ、製品を思うように入手できないことから、建設工事に遅れが出ている。工期が伸びても、管理費などは据置きのままであるため、人件費が余計に掛かることが追い打ちをかけている。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ここ3か月、本州向け生乳の輸送量が大幅に減っている。乳製品関連では、粉乳やバターの在庫も相変わらず積み上がっている。消費の伸び悩みもあり、今後も同様の傾向が続くとみられる。また、ここに来て古紙不足によって、紙パルプ関連の生産にも影響が出始めている。
	x	-	-	-
雇用関連 (北海道)		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人の問合せが増えてきている。また、既存の取引企業においても新規求人数が少しずつ増えてきている。コロナ禍に落ち着きがみられることから、次の展開を見据えて企業が人材採用に動き出してきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響を受けた業界の求人数が回復しつつある。飲食店、小売、宿泊などが様子見をしながらも募集を開始し始めた。ただ、人材の動きがやや鈍く、求職者が様子見している様子もうかがえる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・緊急事態宣言の解除により、業種を問わず、これまで抑制されていた経済活動が動き出している。新型コロナウイルス発生前の水準にはまだまだ及ばないが、少しだけ明るさが出てきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・一次産業が基幹産業である当地において、例年秋は堅調に推移する傾向があり、今年も同様の動きがみられる。緊急事態宣言が解除されたことで、まだ弱い動きではあるが、飲食業界や観光業界に活気が戻りつつある。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・当大学の10月1日時点における新卒予定者の内定承諾状況を見ると、見込みよりも数値が良いことから、企業側の内定出しと新卒予定者の内諾率が向上していることがうかがえる。新型コロナウイルスの終息もあり、大学生を取り巻く環境は少しずつ改善する兆しがみられる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・緊急事態宣言が解除され、新規感染者数も急激に減少しているものの、求人件数の伸びは今一つである。求職者の動きも鈍い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・最近の傾向として、有効求職者数の高止まりがしばらく続いていることが挙げられる。状況が変わっていないことから、失業が長期化していることを懸念している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における9月の有効求人倍率は0.86倍となり、3か月前の6月と比べると0.02ポイント上回っている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・9月の有効求人数は前年から15.9%の増加となったが、新規求人数は前年とほぼ同じ水準となっている。
		*	*	*
	x	-	-	-

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (東北)		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスに関係した抗原キットが販売できるようになり、その分が上乘せされている。また、化粧品の新製品が好調に推移している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月初めから緊急事態宣言が明けて、人の流れが良くなっている。後半にかけて来客数や予約数がどんどん増えており、良くなっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・県や市の来客増加施策がある。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・圧倒的に来客数が伸びている。3か月前は週末だけ多かったが、今月は宿泊者数だけでみると3倍の違いがある。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・首都圏での制限が解除されたことにより、商品の発送が増えている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・10月1日からあらゆる規制が解除になり飲食店街も時間短縮営業が解除になったので、少しずつ客が戻っている。そのような状況にあり、当店の来客数も増えている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・新規感染者数の減少で様々な制限が解除されたことにより、首都圏からの旅行者が急増している。旅館、道の駅等の観光施設には大型観光バスの姿もみられるようになってきている。それに伴い、旅館、観光施設などへの販売量が徐々に増加傾向にある。ただ全ての客先が上向きなのではなく、同じ飲食店でも業種業態による良否格差が大きくなっている。飲食店全体での底上げはまだまだ厳しい状況である。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・利益の上がる仕立てがぼちぼち出てきている。
		百貨店（買付担当）	お客様の様子	・ワクチン接種が進み、気温が下がったことで購買意欲が戻ってきている印象が強い。コロナ禍で減っていた家族連れやグループでの来店がこの1か月で増加している。
		百貨店（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言が明け、前半は前月までの流れから変化はなかったが、新規感染者数も継続的に減少してきた月半ばからは、1割ほど来客数も増え前年を超える日も出てきた。また、気温の低下もあいまって、衣料品の動きも活発になってきている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症に関する規制解除に伴い、土日の動きが出てきている。土日に限れば来客数が前年比16%増加しているが、平日は動きが横ばい状態で前年比99%となっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・7月は高気温、8月中旬以降は悪天候であった本年の盛夏と比べ、来客数は前年比で安定的に伸長している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言解除後、県外からの来客が多くなっており、高額品を中心に購買されている状況である。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・10月初めは景気が動いていないという状況であったが、週を追うごとに新型コロナウイルスの新規感染者数が減って、出張のほか、表彰式や結婚式といったいろいろな行事が増加してきたので、少しずつ上向きになりつつある感じがある。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少、時短営業の解除など、明るい話題が少しずつ出てくるにつれ、消費者のマインドも変わってきており、徐々に消費に向けて行動が戻りつつある。
		家電量販店(店長)	単価の動き	・新型コロナウイルスの感染も一段落して客の購買意欲が増ってきている。冷蔵庫や洗濯機などの白物家電の単価が上がっている。黒物家電といわれるテレビなどの単価も前年並みになっている。季節要因の暖房商品は今のところまだ出ていないが、こちらの単価も段々と上がってくると予想している。全体的には前年並みの数字になっている。
		住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・受注生産なので、受注量が増えたことによって生産量も増加している。
		その他専門店 【白衣・ユニフォーム】(営業担当)	販売量の動き	・宣言が明けて少しずつではあるが動き出してきた感じがある。飲食店や観光業はまだまだ客足は戻っていないが、それでも多少なりとも活気が出ているようである。今後に向けての準備なのかもしれないが光が見えてきた。
		その他小売 【ショッピングセンター】(統括)	来客数の動き	・感染拡大が急速に収まってきて、客足がかなり戻ってきている印象を受ける。ただ、まだまだ購買にはつながっていないので、今後につながることを期待している。
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・レストランのランチ、ディナーの客が増えている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・全く予約が入らなかつたディナータイムに、最近ほんの僅かだが予約が入り始めた。緊急事態宣言が解除されてからしばらく動きがなかったが、月末になり多少客が戻るような雰囲気が出てきている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・時短要請解除の影響があるようである。地方なので、東京都のような爆発的な戻りはないが、時短要請やまん延防止等重点措置、緊急事態宣言が出ていた頃よりは5割くらい戻ってきている。
		観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・緊急事態宣言解除により関東圏からの客足が伸びている。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・様々な規制が解除されたことや行楽シーズンということもあり回復基調ではあるが、客も慎重なようで回復は緩やかなようである。
		旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症新規感染者数の減少による緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の解除により、個人旅行と教育旅行を中心に感染状況をみながらではあるが、ようやく動き始めている状態である。今後の新規感染者数も現状の感染者数程度に収まれば、一般団体においても緩やかに回復する兆しがみえてくる。現段階では様子見の状況である。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・各県で宿泊の県民割プランが復活していることや、緊急事態宣言が解除され新規感染者数が減ってきていることにより販売量が増えてきている。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・前月までは人流が極端に抑制され極めて厳しい状況であったが、9月20日頃を皮切りに緊急事態宣言の解除、新規感染者数の大幅減等もあり一気に人流拡大が始まった。付随受注も極端な伸長をしている。前月までのマイナス分をリカバーするには半年掛かるものの、やや上向き傾向である。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・巣籠り需要が定着してきたためか、首都圏の緊急事態宣言解除後も早く帰宅して自宅でテレビを見たり、インターネットを利用する人が増えている。新しいライフスタイルが幅広い年齢層に定着し、アルコールを伴う飲食等のための外出も思うようには回復していない。引き続き、巣籠りで自宅時間を楽しむためのインターネット利用者は増加傾向にある。
		観光名所(職員)	来客数の動き	・個人のフリーの客の予約が日々増えている。毎日20~30名ずつ新規が入る状況である。また、一般団体も地域のコミュニティの会合、集会などの団体、若しくは旅行会社の募集团体も人数は少ないが徐々に増えている。
		遊園地(経営者)	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の終了と新規感染者数の減少により、客のマインドが好転し、県内中心ながら学校団体の入園もあり、ようやく前年同様の推移となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	お客様の様子	・ワクチン接種が進み新規感染者数は大幅に減少したものの、冬にかけて再び第6波の感染拡大が懸念されることから、景気は横ばいとなっている。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で依然巣籠り状態が続いているとみられ、来客数が少ない。しかし、新型コロナウイルス感染者数ゼロの報告が続いているなかで、徐々に改善されてきている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・8～9月の不調からは脱しつつあり来客数も戻ってきているが、前年、前々年の同月と比較すると、まだまだ回復しきれしていない。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の解除に伴い来客数は回復の兆しをみせ、3か月前と同程度になってきている。
		スーパー（営業担当）	来客数の動き	・来客数は前年比100.0%で変化はなく売上の前年比も100.2%の状況である。緊急事態宣言が解除され、スーパー以外の人流は起きるとみられる。外食などは動きに少し変化が起き、今までの内食需要はマイナス傾向を予測しているため、更に厳しくなるとみている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響がまだあり、多くの人が行動を自粛していると思われる。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ワクチン接種が進んで10月後半より順次客の動きが出てきているが、まだ警戒感が強く新型コロナウイルス発生前のような気軽に外出、外食する動きは見受けられない。様子を見ている状態である。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルス新規感染者数は激減しているが、自粛傾向は続いているようである。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・飲食業関連は依然として売上が減少しているが、ホテル関係は多少戻りつつある。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスも全国的に少し落ち着いてはきたものの、まだまだ県外への旅行などを控える傾向は変わらない。洋服を新調しても出掛ける予定がないからと、購買意欲が抑えられている。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・来客数は増加していない。しかし、季節商材の買換え需要もあると考えられるが買上点数が増加しており、若干良い傾向にあるといえる。
		家電量販店（従業員）	販売量の動き	・商品の購入点数が前月と比べて少しずつ増えてきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・半導体不足の影響で車の納期が不安定であるため、なかなか販売に結び付かない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・ここしばらく、アルコール類の動きは飲食店、一般小売店共に停滞している。特に飲食店は壊滅的で先行きが見通せなくなっている。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、ショッピングセンターの集客が戻りつつある。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス対策の緩和などに期待をしていたが、緩和と同時に原油コスト上昇、販売価格の高騰という環境となり、販売量は低調だった前年すら超えない状況である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・サラリーマンのタクシー利用は県外からの出張者が多く、市内勤務者は極少である。また、高齢者の利用頻度は今月も極端に少なくなっている。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・前月同様変化はない。新型コロナウイルス新規感染者数が減少傾向にあり消費は若干上向きだが、10月から各商品の価格高騰が見受けられるので下げ止まり感がある。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化はみられない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス新規感染者数は減ってきているが、まだ活動を控えている。
		競艇場（職員）	来客数の動き	・休業前までは無料ファンバスでの送迎を行っていた。しかし、再開後はファンバスをやめたため、客の移動手段がなくなり来客数及び売上減少につながっている。
		美容室（経営者）	競争相手の様子	・近隣の同業者は値段を安くしているようである。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス [自動車整備業] (経営者)	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され警戒レベルが緩和されたが、依然として往来の自粛や飲食の自粛が続いている。客足が増えず、売上も伸びない状況は変わらない。
		設計事務所 (経営者)	お客様の様子	・新規引き合いが届いており、一定の需要はあるとみられるが、景気が改善するような全体的な話ではない。
		住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・戸建て住宅受注は伸びないが、賃貸集合住宅の受注が順調である。
		その他住宅 [リフォーム] (従業員)	販売量の動き	・住宅設備機器については、暖房器具の販売、交換工事が増えている。給湯器の納品遅れに対しては代替メーカーの商品を紹介している。リフォームについては、増改築、塗装の大型工事が減っている。
		商店街 (代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が下火になっても余り景気が上がらない。いつの間にか価格が上がっていたり行事がなくなったりしている。
		一般小売店 [医薬品] (経営者)	販売量の動き	・中旬までは平月どおりで推移していたが、下旬にかけて売上額が落ちてきている。通常、年金の支給月は客足も販売額も順調だが、今月の動きは従来と異なっている。景気の悪化によるものか、それとも急に気候が冷えてきたせいなのかははっきりしない。
		スーパー (経営者)	単価の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少が続き消費が回復することを期待していた。しかし、米価の値下がりはあるものの、食品の値上がりや原油価格の高騰が始まり、平均1品単価は上がっている。来客数減少による買上点数の減少もみられ、財布のひもは一層固くなっている。経済の様子は良い話が聞かれず、消費は一段と厳しくなっているようである。消費の状況は前月より良くない。
		スーパー (店長)	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少してきた社会情勢が影響して、家庭内食需要に低下の兆しがみられる。生鮮食料品を中心に販売量の落ち込みが始めている。
		スーパー (店長)	販売量の動き	・会社全体として前年の売上をぎりぎり維持している状態である。
		スーパー (営業担当)	来客数の動き	・新規感染者数の減少によるリベンジ消費の増加から内食需要が下がっている。新規感染者数が増加して巣籠りによる内食需要が増加した前年の冬と比べると反動減が大きくなっている。季節の地域イベントの自粛も消費活動に大きく影響している。
		コンビニ (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症は大分少なくなってきたが、客の動きはまだまだかなり鈍く売上には直結していない。なぜなのかは分からない。
		コンビニ (経営者)	来客数の動き	・来客数の減少が依然続いており、厳しい経営である。客単価は上昇したがたばこ増税によるもので、利益につながっていない。
		コンビニ (経営者)	来客数の動き	・来客数、販売量共に減少傾向にある。地域の景気も改善がみられず、実質収入も減少していると推測される。
		コンビニ (店長)	来客数の動き	・いざ緊急事態宣言が解除されてみると、意外に財布の中にお金がないという客の声が多く聞かれ、新型コロナウイルスの経済への影響が広く悪い方向に噴き出してきたような印象を受けている。
		家電量販店 (店長)	来客数の動き	・特に年配者の来店数が減っている。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新車受注に比べ、余りにも納期が遅れている。納期が遅れているということは、販売や登録に結び付かない。
		住関連専門店 (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症は新規感染者数が減少傾向にあるが、客の入り数が少なく、高齢者の購買にはまだまだ結び付いていない。買物は様子見という人が多いようである。
		高級レストラン (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が段々と収束してきており、客は模様眺めをしている。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除になってからは、週末は県外客が来るようになったが、地元客はまだまだ来店しての食事は控えているようである。集まりを制限している法人客が多く、夜の部は特に冷え込んだままである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	お客様の様子	・ワクチン接種が大分進み新型コロナウイルスの新規感染者数が少なくなってきたが、客からはこの先の再流行を心配しているという話を聞く。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・コロナ禍による集客の激減で、特に飲食業、宿泊業に大きなダメージがあり廃業に追い込まれる店舗がかなり増えている。新規感染者数が減って来てはいるものの客足が戻らない。景気は更に悪くなっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・3か月前の来客数は前年比で100%を若干下回る数字であった。前月は緊急事態宣言があったので約88%であった。今月は前年比約92%となり僅かずつ戻ってきている。しかし、どういうタイミングでどこまで伸びてくるかは見通せない。
	×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・客の来店頻度が低くなり、買上点数が減っている。明らかに来店客の様子が生活防衛型消費へ転換している。
	×	コンビニ（経営者）	それ以外	・売上が減り続けているなかで最低賃金上がり、経営状況は最悪になっている。
	×	乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・メーカーの生産遅れが長引いている影響で足元収益がかなり悪い。サービス含むバリューチェーン領域でカバーしきれないところまで来ている。
	×	その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	来客数の動き	・住宅ローン減税の注文住宅対象期間が9月に終了したこともあり、10月の来場組数は前年比85%、過去5年平均比70%となる見込みである。11月からは気温も下がり、来場動機になる要素も少ないことから、12月までは厳しい状況が続くとみている。
企業 動向 関連 (東北)		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・民間の大型設備投資を始め、多数の受注があった。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国的に緊急事態宣言やまん延防止等が解除され、人の動きが出てきた。土産需要も少し動き出した感じはする。売上は前年よりプラスにはなっているが前々年から比べるとまだまだである。いろいろなものの値段が上がり出しており、コスト的にも厳しい状況である。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・県の緊急事態宣言解除後、店舗の売上が少しずつではあるが右肩上がりになっている。駅周辺の人や車の往来も増えてきており、また飲食店においては家族連れも多くみられるようになった。県独自で実施している食事券の利用も増えてきている。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ワクチン接種率が70%近くまで進捗し、新規感染者数は全国的に日を追うごとに減少してきている。これにより、延期になっていた業務が再開になったり、新規の発注が出てきたりしている。今月の売上はようやく前年を超える水準になり、前々年比較だと95%まで回復することが予想される。
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・依然として観光宿泊関連はペースが戻らないものの、休日の街中や商業施設ではにぎわいを取り戻しつつある。当地では緊急事態宣言等が発出されたわけではないが、全国的な新型コロナウイルス対応緩和による心理的な影響が顕著になっている。
		広告業協会（役員）	受注量や販売量の動き	・急激な新規感染者数減少に伴い、10月に入ってから旅行会社からの広告出稿が目立ってきた。これにイベントが通常開催になるようであれば、広告業界全体の底上げが期待できる。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言解除と衆議院選挙で多少上向きであるが、それ以外の落ち込みを勘案すると、大きな変化は少ないとみられる。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・ワクチン効果も現れて新型コロナウイルスを心配しなくてよい状況になりつつある。特に、今まで悪かった業務用、飲食業、観光業、レジャー産業といった業界がこれからますます良くなるのではないかとみている。一方、今まで新型コロナウイルスに左右されなかった商売はやや落ち込むのではないかとみている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	それ以外	・町内の温泉街にも客足が戻り幾分活気がみられるようになっており、特に週末から月曜日にかけて泊まり客が増えている。滞在時間は短いものの土産店や土産物店でも客が増えてきている。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・9～10月は天候にも恵まれ、ぶどう、なしの品質が良く、販売単価が例年より1～2割程度高くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・相変わらず販売量の5～10%減少が続いている。緊急事態宣言解除による影響は、まだない。
		出版・印刷・関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらずイベント等の開催が少ないため印刷物が少ない。しかし、新型コロナウイルス対策や選挙絡みの仕事があるため、前々年並みに戻り始めている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・半導体価格が徐々に本来の傾向に戻りつつあり、コロナ禍の一時的な上昇傾向は収まってきている。それに応じて景気も変化するとみていたが、大きな影響はない状況である。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事は一定の受注があるほか、民間工事も相応に受注がある。一方、人手不足は解消にまだ時間が掛かる見込みである。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・5G化の影響で料金の引締めが厳しくなっており、現状維持も限界が近い。
		経営コンサルタント	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数が一気に減少し、水面下での景気浮揚のエネルギーは感じるが、現段階では目に見える変化はない。
		公認会計士	取引先の様子	・客の月次、あるいは決算状況から判断している。飲食店、小売、サービス業はかなり苦戦している。建設業関係は若干持ち直しているが、全体としては3か月前とさほど変わらない。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月は前年のGo Toキャンペーンの反動が出ている。観光客の外出並びにGo Toキャンペーンクーポンによる土産需要がなくなっている。
		窯業・土石製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・出荷量は前年比10%減少が毎月のように続いている。需要減少と原材料の価格高騰等もあり厳しい状況が続いている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・取引先が所有している各設備については、予防保全ではなく事後保全での対応に移行して修繕費抑制を図っている。また、経年劣化や不具合発生に伴う設備更新において、既設納入メーカー特命発注ではなく、競争発注による調達が増加している。
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・主力商品であるIT機器関連商品の半導体の品不足による入荷遅れは解消されておらず、受注はある程度あるが売上計上ができない状態が続いている。
		×	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き
雇用 関連 (東北)		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・9月の終わり頃から緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の解除を見込んで各企業が求人を出し始めている。今月に入り、派遣会社や事務員の募集、小売店の販売業募集等で企業の採用単価が前月よりも大幅に上がってきている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数の伸びを見ても新型コロナウイルスの影響前の2019年と同等水準まで回復してきている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・今月に入り接客販売業務や製造業務の求人数が増加しており、求人全体が増加傾向にある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・旅行業を中心に広告出稿の問合せが増加してきている。他業種でも前向きな相談が増えてきている。また、緊急事態宣言解除に伴い、夜のアルコールを伴う飲食の機会が増えている様子である。新型コロナウイルス対策をしっかりとった個室のある飲食店では満席が続いている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、制限はあるものの各種イベントが実施されるようになっている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・洋上発電の建設などで作業員の飲食、宿泊需要により新型コロナウイルスの影響を受けやすい飲食店や宿泊施設が逆に好調な状態にある。総じて新型コロナウイルスの影響が少ない状況にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と比較して新規求人数、有効求人数共に約100人増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は製造業だけでなく、小売業、飲食業、宿泊業を含め全体的に増加傾向となっている。ただし、労働力の不足を訴える事業所が多くなっており、成長の阻害要因になっているとみられる。
		民間職業紹介機関（職員）	周辺企業の様子	・2～3か月前と比べて徐々に生産数が戻り、人手を必要としている企業がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔専門学校〕	周辺企業の様子	・県内の新型コロナウイルス新規感染者数の減少により、飲食店への来客数が増加傾向にある。また、それ以外にも、外出や宿泊を伴う人の動きが増加している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業における採用や補充、増員などの動きはまだみられない。横ばいが続きそうである。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・オーダー数が現時点で前年よりマイナスであり、いまだ回復傾向はみられない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新聞広告の申込状況は変わらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は若干の減少となっているが2か月連続で前年同月とほぼ同数となっている。
		アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・現在まだまだ会議が少なく、良くなっていない。
	x	-	-	-

### 3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北関東)		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べると、販売量は今月の方が良く、景気は確実に上向いてきている。新型コロナウイルス禍以前の2019年度と比較しても、売上は7割程度まで改善しており、明るい兆しである。観光業は、新規感染者が減少傾向になると上向く傾向があるが、10月中旬からの新規感染者数の激減に呼応するように、急激に来客数が増えている。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの新規感染者数も減少しているなかで、各地で地域版Go Toの開催やGo To Eatキャンペーンの再開等あり、人流が増加してきている。年末年始まで人流が続くことを期待して、より強い感染対策を実行しながら、客を迎えたい。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除されたが、新型コロナウイルスの影響による厳しさは残っている。ただし、ワクチン接種が進み客足が戻ってきている。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・来客数は徐々に回復傾向にあり、緩やかなペースとなっている。ただし、回復傾向と売上はまだ連動していない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年比でみると、売上は99.6%、来客数は92.7%であり、売上は前年に近づいているものの、リモートワークもあり、来客数は戻っていない。また、新型コロナウイルス前と比べると、まだ、戻りは小さい。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されてから、来客数が増えてきている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・10月初めは暑い日が多かったため、秋冬物の動きが鈍かったが、新型コロナウイルス新規感染者減少に伴って、客足が増え始めている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車販売は、やや需要が伸びている。その他の動きについては、余り良いとはいえない。
		住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴い、来客数は少しずつ増えてきている。ただし、増加幅はまだ小さく、消費を押し上げるまでには至らない。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・少しずつ新型コロナウイルス以前に戻りつつあるが、警戒と自粛慣れで、来客数はすぐには戻っていない。ただし、アルコール等の注文が戻ってきており、客単価は良い。まだ遠出の旅行には行けず、近場の飲食店でぜいたくするような感じである。客層は、以前のような女性グループよりは週末の家族連れが多い。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言や時短要請が全て解除されたが、いまだ動きが鈍いように感じる。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	販売量の動き	・事業所給食では、幼稚園や保育園部門で、新型コロナウイルスに対する懸念から欠席する園児の食数減少分が減っており、全体でも通常に回復してきている。一方、レストラン部門は、緊急事態宣言解除に伴い休業していた店舗が一斉に営業再開したものの、利用客の動きは慎重で、顧客を取り込み切れていない店舗が多い。特に、平日の客の動きはまだ鈍い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (支配人)	来客数の動き	・10月に入り、週末はレジャー客、平日はビジネス客の宿泊が増えている。また、当県独自の宿泊割引が再開したことにより、宿泊客が増加している。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・当県独自のキャンペーンが開始され、県内宿泊が増え出したため、やや良くなっている。
		旅行代理店(所長)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者の激減、緊急事態宣言の解除、飲食店への時短制限等の解除により、かなり人の流れが変わってきている。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・緊急事態宣言解除で、少し動きが見えている。Go Toキャンペーンが決まり、加速することを願っている。
		通信会社(営業担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後、明らかに店舗への来客数が増加し、徐々にではあるが、消費は回復してきている。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、緊急事態宣言解除を受け、個人客も少しずつ増加している。学生の団体は、予定していた学校に加えて延期していた学校も来園する等、前年を上回るペースで来客がある。
		ゴルフ練習場 (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、9月は外出を控えたせいで街に出歩く人がいなかったが、10月に入り、平常を取り戻しつつある。
		設計事務所(所長)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大第5波のピークから徐々に落ち着いてきたため、少しずつ通常の経済活動が再開されている。
		一般小売店[精肉] (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者がかなり減ってきて、制限が緩和されてきている。飲食店への影響はまだ分からないが、大型店にも少し客が戻ってきたようである。一般個店は全然呼びがない状況である。イベントもなく客寄せができないので、景気の上向きは感じられない。
		百貨店(営業担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの新規感染者数も減少傾向にあるが、来客数、売上額共に宣言中と大きな変化がなく、厳しい状況が続いている。
		スーパー(商品部担当)	単価の動き	・緊急事態宣言解除後、人の動きはあるものの来客数は伸びず、客単価も変動がない。観光地の店舗では多少の来客数増加はあるが、回復までには至らない。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・前年は新型コロナウイルス禍のなかでも、Go To Travelキャンペーンがあったからか、比べると今年は観光客が意外と少ない。
		衣料品専門店 (販売担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されてからほぼ1か月たつが、人の流れはその前とほとんど変わっていない。変わったのは、近場にある居酒屋、飲食店等の業種だけで、当店のような婦人衣料、特に、高齢者対象の店では、ほとんど客の流れがない状態がずっと変わっていない。
		家電量販店(営業担当)	販売量の動き	・前年は新型コロナウイルス対策の商材準備等で、空気清浄機、パソコン、通信小物、消毒関連等の販売が好調だったが、今年は前年比70%となっている。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・国内の自動車メーカーは、半導体不足等の影響で、約40%ダウンの生産量となっている。相変わらず、納車待ちの状況が続いているが、客からの注文はそこそこある。怖いのは、納期が4~5か月遅れで常態化することである。
		乗用車販売店 (販売担当)	来客数の動き	・今月に入って緊急事態宣言が解除されたので、これからは良くなるだろう。今までは、商店街や小さな飲食店等、大きなダメージを受けており、本当に何十年かぶりの来客数の少なさである。ショールームやサービス工場への来客数が極端に落ちている。
		住関連専門店 (店長)	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者はかなり減っているものの、飲食業や観光関連業者が上向いていない。このまま終息すれば上向きになるのではないかと。
		その他専門店 [靴小売業] (経営者)	来客数の動き	・全体的には変わらない。緊急事態宣言は解除されたが、生活スタイルは余り変化がない。一部では人の動きにやや変化が出てきている。一方、仕入先のメーカーや海外生産基地の状況がかなり厳しく、発注商材の入荷見通しが見えない。仕入価格、物量費の上昇等が把握できない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・同業者同士の会話でも良くなってきたという声は全く聞かない。取引業者からも明るい話はない。
		都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・宿泊は、個人客を中心にやや盛り返してきているが、早々と中止になった大会予約が復活するわけではなく、団体予約は総じて厳しい。料飲部門も、宴会等の問合せは低調で、こちらも個人客頼みとなっている。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・昼の動きが良かったので、前年同月比20%の増収である。ただし、2年前の同月比では32%の減少となっている。
		通信会社（局長）	来客数の動き	・来客数、販売量共に横ばいとなっているが、客の購入意欲は向上しているように感じる。
		競輪場（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの新規感染者数も減少しているものの、いまだ来場者の動向は鈍い。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・衆議院議員選挙の月は、消費者の購買意欲が落ちるアノマリーがある。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスのワクチン接種率が70%を超えてはきたが、景気回復にはもう少し時間が掛かる。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言解除で制限が緩んだとはいえ、いまだに大変厳しい状況で、閉店する店や撤収する居酒屋等がかなり目立っている。一方では、準備のため店を開けようとする居酒屋、スナック等もあるが、まだ街の活気はみられない。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	お客様の様子	・大型案件がごとごとく見送りが待機状態になっている。新型コロナウイルス禍による事業の停滞により、積極的な投資が滞っている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・来客数、販売実績共に鈍化している。
		その他専門店〔燃料〕（従業員）	販売量の動き	・受注がかなり悪くなっている。受注残が前年同月と比べても少なくなっている。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・半導体など部材不足の影響が理由とされているが、売れ筋商材の入荷が少なく、需要にこたえられていない。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染拡大による制限が解除されても、ガソリンを始めとした諸物価の高騰が、顧客の購買心理を押し下げている。自動車整備に至っては必要最低限の依頼の客が増えている。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・建築資材の高騰や流通状況の不安により、販売自体が止まっている。現状が打破できない限り、状況改善は見込めない。
	×	家電量販店（店員）	販売量の動き	・9月に続き、前月比97%と下がり、前年比でも86%と下がっている。不振商材は販売構成比の大きいエアコンが前年比56%、テレビが同比68%と大きく下がっている。
	×	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されても、以前のような利用数が戻ってきていない。
	×	タクシー（役員）	それ以外	・新型コロナウイルス対策は不公平感があり過ぎて、今後税金を負担したくない。
	×	通信会社（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除になっても、地方経済は回り出していない。
企業 動向 関連  (北関東)		-	-	-
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除になっても、景況感は余り変わらない。当社では、売上、契約いずれも順調に伸びている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響も少なくなったためか、入居率が上がり、入退居の回転も上がっている。清掃や修繕等の受注量も増えており、やや良くなっている。
		化学工業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格の値上げ圧力が強く、対応に苦慮している。価格転嫁した場合、現在の受注量を維持できるか予想ができないため、現状維持の足踏み状態である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・部品が入らず、どんな部品でも3～4か月待ちの状況である。また、毎月のように部品価格がどんどん値上がりして、かなり状況として厳しくなっている。同業者に話を聞いても、「年内は何とか部品は持つが、来年の分がどうなることやら」という感じである。自動車関係も半導体等がなくて製造が止まっているが、製造業全体が止まるような気がしている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・この2～3か月、取引先の販売や受注量は若干増えており、今月も余り変化がない。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・天候も涼しくなり、冬物家電、こたつ、電気カーペット、寝具等、計画どおりの物量を確保している。一部、海外の新型コロナウイルス禍によるコンテナ便の入荷遅れもあり、予定がずれている。燃料価格高騰もあり、利益が少し薄くなっている。
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言解除により、年末に向けた販促広告依頼が少しは出てきているものの、まだ件数は伸びてこない。
		司法書士	受注量や販売量の動き	・長い新型コロナウイルスの影響下で、低め安定というように感じて、余り変わっていない。
		社会保険労務士	取引先の様子	・一時期よりは、一般的に良くなってきている。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除されてから、引き合い等の動きに変化がみられる。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車組立ラインの稼働停止の影響が、非常に大きく出ている。
		不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大のため延期になっていた清掃や管理業務が中止となり、売上が減少している。
		経営コンサルタント	それ以外	・緊急事態宣言等による自粛要請が一段落して、地域の雰囲気としては一応の安ど感が広がっているように見える。商店街や街なかの人出にも動きが出てきているが、個人や企業ごとに受け止め方は様々で、地域全体の経済活動の活発化にはもう少し時間が掛かる。
	x	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車の半導体不足や東南アジアのロックダウンによる部品調達不足が、依然として続いている。
	x	建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業である。現与党政権誕生後は公共工事は順調に推移している。公共工事は前期は災害復旧工事受注があったため、今期は前年比86%の発注である。当社も前期比10%減の受注で厳しいが、今後の発注に期待している。
雇用関連		-	-	-
(北関東)		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・建設業や製造業を中心に、求人数が回復傾向にある。
		人材派遣会社（管理担当）	採用者数の動き	・サービス業の採用数が増加しているため、やや良くなっている。
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・衣料品等は、多少寒さが厳しくなってきたから動きが出るのではないかと。生鮮食料品、スーパー等はパートを中心とした募集傾向が多くみられる。製造もどちらかといえば食品関係の募集が段階的に増えつつある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・現地の新型コロナウイルス感染拡大による海外工場閉鎖により、部品調達ができず製造ラインを停止していた管内の工場では、状況が回復し求人申込みがある。一方で、東南アジアから半導体等の部品が納入されない自動車メーカーでは、受注があるものの作業できない状態のため、雇用調整助成金の申請をしている事業所もある。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・8月から緊急事態宣言発出により時短要請を受けた飲食店が休業しており、9月休業の雇用調整助成金の申請が増えている。
		学校〔専門学校〕（副校長）	求人数の動き	・求人状況は分野によって、前年より多くの求人数の分野がある一方で、逆に少ないところもある。
		-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	*	*	*

#### 4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (南関東)		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・一重に緊急事態宣言の解除が天धिक影響している。東京都の新型コロナウイルス新規感染者数の減少による安心感が影響してか、家族連れが増え、週末は数か月ぶりに来店する客なども多く見受けられた（東京都）。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・飲食業界ではこの10月から来客数が激増している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、酒を出せるようになったため、週末は今までの2～3倍以上の客が来店するようになっている。今まで動けていなかった身体が、急に忙しくなり少々疲れ気味である（東京都）。
		旅行代理店（販売促進担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの感染者数も減ってきているので、個人の国内旅行が動き出して、良くなっている。また、教育旅行では、公立を中心に修学旅行が予定どおり又は春の予定であったものの再開が見込まれており、これも良くなっている要因である。ただ、国内の団体等については相変わらず様子見なので、年内又は年明けはまだ難しいような情勢である。ひとまず旅行業界とその周辺は、国内の個人客と修学旅行の動きが良い（東京都）。
		商店街（代表者）	それ以外	・さすがにどん底であった緊急事態宣言下よりは上向いている。遠方へのアミューズメントが少ない現在は、晴れた休日など新型コロナウイルス発生以前より街に人があふれている。ただし、クレジットカードの取扱高を見る限り、人の多さとは対照的に数字は伸びておらず、財布のひもは相変わらず固そうである。飲食の回復もまだまだ厳しいのが現状である（東京都）。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	来客数の動き	・家電製品、特に買換えの問合せが増えてきている。売上としては増えていないが、これから売れてくる。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で客がほとんど増えなかったが、最近になって幾らか客も戻ってきているように感じている（東京都）。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除により、取引先である近隣飲食店の営業条件が緩和されたため、会計伝票などの業務用品のまとめ買いがはじめてきている。それにより客単価が上がり、2～3か月前との比較では、売上はやや上向き傾向である（東京都）。
		一般小売店〔生花〕（店員）	お客様の様子	・客から、新型コロナウイルスの出口が見えてきてうれしいねとか良かったねというような話が聞かれる。この2年間、お祝いの花が本当に出なかったが、やっと10月の終わり頃から出るようになってきている（東京都）。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、気温の低下等も影響し、また外出の機会が増えるなかで、9月まで苦戦していた婦人、紳士衣料品共に動きが出てきている。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの影響もやや落ち着いてきている。3か月前と比較すると、商環境自体は良い方向へと変化しているが、客の消費行動は劇的に改善しているわけではないとも感じている。季節の変わり目が明確だったこともあるが、婦人ファッション関連の動きは、前年よりは良くなっている。しかし、過去の実績と比べると、期待するところまではまだまだ届いていない（東京都）。
		百貨店（総務担当）	来客数の動き	・10月から緊急事態宣言が解除され、来客数が前月よりも増加傾向にあり、前年の90%程度まで回復してきている（東京都）。
		百貨店（広報担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数の減少が顕著なこと、また、緊急事態宣言が解除されたこともあり、外出自粛傾向が緩やかながら収まっている（東京都）。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数の減少に合わせて、来客数、売上共に増加している。し好品や高額品の購入増加などが要因である。食品は今年より相次ぐ値上げが発生しているが、大きな買い控えはみられない（東京都）。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・10月半ばから、化粧品の接客ルールが緩和されたことで、客単価や販売数が前年にやや追い付きつつある。ただし、新型コロナウイルス発生以前の2019年度の数字には、まだまだ届かない（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・9月末での緊急事態宣言解除により、10月は来客数も回復傾向となり、3か月前の緊急事態宣言再発出直前と比較すると、景気は良くなっている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・当店は繁華街にあるが、緊急事態宣言が解除され、歩行者天国が解放されたことにより、客の流れが多くなったと感じている。また、飲食店で酒を提供できるようになったこと、営業時間も長くなった影響で、来客数も多くなっている（東京都）。
		百貨店（経営企画担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、徐々に街中の人出は回復してきているものの、消費回復にはまだ至っていない。19時以降の来店客が少なく、以前のような閉店間際の駆け込みも少ない。テレワーク等の推進によりオフィスへの出勤者が少ない影響も考えられる（東京都）。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・9月より徐々に、10月中旬からは明らかに人流が増加している。キャリアを引く客も増加しており、ターミナル立地の商業施設としては、県をまたいでの移動がいよいよ増加してきていると実感できる（東京都）。
		百貨店（財務担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除、行動制限の緩和等により、販売量が回復基調にある（東京都）。
		スーパー（総務担当）	競争相手の様子	・緊急事態宣言が解除され、街に人が出てきている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・たばこ増税前の駆け込み需要があり、前年並みの売上となっている。緊急事態宣言が解除されたことで客足も戻りつつある（東京都）。
		コンビニ（商品開発担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除以降、観光地を中心に来客数が確実に増えてきている（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・寒くなり、肌着や靴下等の実用衣料品の売上が大変良い。新型コロナウイルスが収束しつつあるので、月末の売出しも良くなっている。外出着については相変わらず新型コロナウイルス発生以前には戻らない。旅行等はまだまだこれからのようである。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、10月に入り業績が向上している。特に、ドレス事業は、結婚式の開催によりゲストドレス需要が回復し、前々年とほぼ同水準になりつつある（東京都）。
		衣料品専門店（役員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、人出が多くなってきているものの、購入単価は相変わらず低い。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除されたため、年末商戦に向けて売上が向上する。
		家電量販店（経営企画担当）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言が9月30日をもって全面解除された状況下、10月に入り、前年度を超える水準には届いてはいない。しかし、感染第5波のときと比べると安心感がまるで違う。これから、経済は徐々に緩和の方向で進むものと考えている（東京都）。
		乗用車販売店（販売担当）	単価の動き	・緊急事態宣言が解除され、展示会、イベントが以前よりは開催しやすくなってきているため、半導体の供給不足はあるものの、新車の需要が多少伸びてきている。ただし、整備については、新型コロナウイルスの影響で走行距離が少ないために、整備当たりの単価、部品代が減って、粗利率が下がっている。全体的には新車については良く、整備関係は利益率では落ちてきている（東京都）。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・半導体不足の影響で車両登録が進んでいなかったが、徐々に解消してくると予想している。
		その他専門店【貴金属】（統括）	来客数の動き	・来客数が徐々に増加しているに伴い、売上も増加傾向にある（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		高級レストラン (営業担当)	来客数の動き	・自粛の解除、酒類提供の緩和が天धिक影響しており、25日以降の直近のレストラン利用や11月以降の利用問合せが増えている。10月度の売上は前年比98.2%、前々年比30.9%となっている(東京都)。
		高級レストラン (仕入担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスも落ち着いてきているからか、来客数が徐々に増えてきている(東京都)。
		高級レストラン (役員)	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除により、来客数が増え、酒類提供の制限解除によって客が酒を注文できるようになり、単価も上がっている(東京都)。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・3か月前は新型コロナウイルスで大変な状況で、時短営業をしていたため、売上がほとんどなかった。今は時短営業も解除されて少しずつ客が増えてきてはいるものの、まだまだ以前のようにはいかない。3か月前よりは少し良くなってきたという程度である。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・3か月前の7月1～29日までの前年比は、売上81.0%、来客数84.0%である。今月10月1～28日までの前年比は、売上76.2%、来客数74.3%である(東京都)。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・ランチ、夜営業共に来客数が増えている。リモートワークも一部残っているようだが、客が複数名で来店する機会が増えてきている(東京都)。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・飲食店経営なので、緊急事態宣言解除は大きな影響がある。ただし、この2年間の自粛生活により、以前に戻るとは言えない。今後も動向を見ていきたい(東京都)。
		その他飲食[居酒屋] (経営者)	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、完全に新型コロナウイルス発生以前までとは言わないが、少しずつ外食する人が増え、当店の来客数も増えている(東京都)。
		その他飲食[カフェ] (経営者)	来客数の動き	・10月に入り、飲食が急が増え、友達同士、子供連れの客が多くなっている。懸念材料としては、おしゃべりしたい客が多く、マスクを外したまましゃべっている客も多数いることである。スタッフへの新型コロナウイルス感染が心配なので、感染対策が必要だと強く感じている(東京都)。
		その他飲食[給食・レストラン] (役員)	それ以外	・売上は5%未満ながら若干伸びている。利益が大幅に改善したのは、新型コロナウイルス禍後の新体制整備を行い、人件費を大幅に減らすべく、人員削減を図ったことが大きな要因である(東京都)。
		都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数が急激に減少したことにより、ムードが良くなっているような気がする。10月24日をもって営業時間等に関する規制も解除されたので、現状としてはやや良くなっている。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、レストランを中心に個人利用が戻りつつある。週末は席数調整を行ってはいるものの、ビュッフェやフランス料理のレストランでは満席になる日がみられている。単価も比較的高単価で推移しており、徐々にではあるものの、景気の回復を実感している。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・学校団体の修学旅行、遠足は一斉に動き出しているものの、一般団体の動きは皆無である。
		旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染者数が減少し、緊急事態宣言が解除され、世の中が平常に戻りつつあるので、徐々にではあるが、来客数が戻ってきている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、夜の需要がやや戻りつつあり、人の動きも増えたように感じる。店の時短営業も25日で解禁となり、今までよりは需要が増える。
		タクシー運転手	来客数の動き	・営業時間等の規制が24日をもって解除されて、新型コロナウイルス発生以前ほどではないものの、これまでに比べて少し人の流れが出てきたような気がする(東京都)。
		通信会社(経営者)	お客様の様子	・10月の客からの問合せ件数は、前年同月と比較して戸建て、集合住宅共に半減、3か月前と比較しても4割減と大きく減少している。客からの動きは鈍くなっているものの、新型コロナウイルス禍による訪問拒否や営業キャンセルの増加はなく、営業全般的には落ち着いており、雰囲気は良くなってきている(東京都)。
		通信会社(社員)	お客様の様子	・前月に引き続き回復傾向がみられる。番組の引き合いイベントの計画が具体化している(東京都)。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（社員）	販売量の動き	・緊急事態宣言解除により量販店に入が戻ってきている（東京都）。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、人の流れが戻るにつれて、新規契約数が少しずつ増加している傾向がみられる。
		通信会社（局長）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたことで客との接点が増え、加入件数も徐々に上向き傾向になってきている（東京都）。
		ゴルフ場（経理担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍においても比較的安心して取り組めるスポーツとしてゴルフが注目され、会員権相場も堅調であり、繁忙期という季節的要因もあって、稼働率は底堅く推移している。レストランにおけるアルコール提供制限は解除されたものの、感染警戒の動きも多くみられ、平時の水準への回帰には時間を要するものと思われる。企業名を冠したゴルフコンペなどの自粛の動きは継続しており、全体的な収益性は低下している。
		その他レジャー施設〔ボウリング場〕（支配人）	お客様の様子	・予約の問合せなどが徐々に入ってきている（東京都）。
		その他レジャー施設〔複合文化施設〕（財務担当）	来客数の動き	・来客数が増加している（東京都）。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスが収束に向かっていることから、こちらから客に対するアポイントが取れるようになり、少し前方が明るくなったような気がしている。新しく社員を迎えられる話も見えているので、これから活気が出てくるのではないかと。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・大きなプロジェクトが一つ終わったが、他の案件が幾つか入ってきている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・3か月前と比べて大きな変化はない。相変わらず地価が高騰したままで、在庫がない状況である。年明けには需要も減り、地価が下がってくるのではないかと。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・展示場の来場者数にはさほど増減がみられないものの、受注量は確実に増加してきている。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	販売量の動き	・東京オリンピック前後で停滞していた建材需要が盛り返ってきている（東京都）。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・最近の客の様子を見てみると、来客数はやや増えてきているものの、買物をする準備がまだ余りできていないようである。何となくまだ買物に対して慎重な部分が残っており、決定はしてもらえるのだが、決定するまでに他店との比較をするなどで時間が掛かっている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・補助金を受け取った飲食店で、多少店の改装をするなどの話だけは聞こえてきているが、今後どのように仕事につながるかはよく分からない（東京都）。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスがそろそろ収束しつつあるが、またいつ第6波という形で身近に発生するか分からない。また、収束後は恐らく商売の方法が大きく変わる感じがする。その辺に注目して、よく勉強して商売していけないといけなく強く感じている。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向で、飲食店も徐々に通常営業に戻りつつあるが、人出はまだ戻っていない。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	販売量の動き	・来客数が今一つ伸びていない。売上は、平日は伸び悩んでいるものの、土日は幾分伸びているようである。
		一般小売店〔傘〕（店長）	来客数の動き	・商店街の人通りが少なく、にぎわいが少ない。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・まだまだ緊急事態宣言の影響で仕事にならない。営業時間等の規制も今月で解除されるようなので、もう少し様子を見てみないと何ともいえない。これから年末に向けて人が動き、店が忙しくなることを期待するばかりである（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	販売量の動き	・年度末に掛けての受注量が例年並みに続いている（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・10月1日に緊急事態宣言は解除されたものの、東京都はリバウンド防止措置期間として引き続き営業時短要請、入場者整理を求められ、今のところ来客数の改善は特にみられない（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスが落ち着いているからといって、急激に来客数が伸びるわけではない（東京都）。
		百貨店（企画宣伝担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言解除後のリバウンド消費を期待していたが、思ったほど大きくなく、2019年の水準には戻っていない。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・客の様子を見ていると、広告初日の目玉商品やタイムサービス、あるいはポイント何倍といった特典のある日や時間帯をうまく利用して、少しでも安く買物をしようという傾向が多く見受けられる（東京都）。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・来客数が減っている。
		スーパー（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響が少しずつ収まるなかで、地域催事も再開されるようになり、数量をまとめて購入する特注等が上がってきている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・買上点数は前年並みを維持しているものの、単価の上昇がみられてこない。消費者の志向がより安価な物へとシフトしている（東京都）。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・衣料品、住まいの品は前年を下回っており、10月前半は特に悪かった。月後半は気温が下がったことで若干回復傾向にはあるものの、まだまだ前年には届かず、前々年を大きく割る状況が続いている。食品は来客数を含めて前年を上回っているものの、今後の値上げを含めて客の買い方が非常にシビアになってきている様子が見受けられる。
		コンビニ（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスが収束に向かっているが、今月に入り、アルバイトの応募が飲食店に流れてしまい、全く来なくなってしまう。そのため、夜間の時給を大幅アップせざるを得ず、全く利益が出ない状況に陥っている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・天候に左右されているのではなく、買上額が少ない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数が激減し、ショッピングセンターなどにも人が出ているようだが、来客数的にはまだまだ変わらないというのが現状である。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年度と比べると、売上は前年を割っている。緊急事態宣言が解除され、飲食店が通常営業に戻ったことにより売上が減少しているとみている。また、たばこの値上げによる買い控えもある。
		衣料品専門店（従業員）	販売量の動き	・問屋の話からの判断である。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・必需品に関しては底堅いが、趣味嗜好商材に関しては力強さを感じられない（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備は順調に入っているが、販売が余り芳しくない。前月の5割減となっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車の半導体不足と、新型コロナウイルスの影響で海外からの部品供給が遅延している影響で、納期の遅れがまだ解消していない。
		乗用車販売店（店長代行）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、海外からの部品の在庫不足により納期が長期化しており、販売量を増やすのは難しい（東京都）。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・国内の新型コロナウイルス感染状況は落ち着いてきているが、自動車業界は海外の部品不足の影響で、相変わらず新車の納期が遅いため、客が車検期日に間に合わないからと購入を見送るなどしている（東京都）。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	来客数の動き	・来店頻度が落ちているので、来客数、売上共に減少している。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	販売量の動き	・販売量の動きは前月とほとんど変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他小売 [ショッピング センター] (統 括)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が改善し、客の行動も活発化してきている(東京都)。
		その他小売[生 鮮魚介卸売] (営業)	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスも落ち着いてきているが、気持ちとしては喜べる段階ではない(東京都)。
		その他小売 [ショッピング センター] (統 括)	販売量の動き	・10月は気候の影響が大きく出ている。前半は気温が高くアパレルが不振であったが、気温が低下してからは好調となっている。飲食店は新型コロナウイルス禍により苦戦が続いている。直近は、感染者数激減の影響で、以前より僅かながら上向いている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除後、一時は予約の問合せがあったが、人流の大きな増加は感じない(東京都)。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・3か月前は、新型コロナウイルスの感染状況等の影響で客が外食を控えていた。今も、緊急事態宣言が解除されたものの、まだそれほど浸透していないので、2~3か月前と変わらない。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言及び時短営業が解除されたが、一般の生活はすぐには元に戻らないと感じている。テイクアウトの注文が減りイートインが増えてはいるものの、夜間の来客数と滞在時間が余り変わっていないからである。
		一般レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・特に変わった様子はない。
		旅行代理店(経 営者)	お客様の様子	・客に電話をして、旅行の話を勧めているが、新型コロナウイルスが収束したわけではないので、今のところはまだ二の足を踏んでいるようである。
		旅行代理店(従 業員)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染収束の兆しは感じられるが、まだ個人旅行は拡大が始まったばかりである(東京都)。
		旅行代理店(営 業担当)	お客様の様子	・旅行需要はまだまだである(東京都)。
		タクシー運転手	それ以外	・新型コロナウイルスの緊急事態宣言が9月30日に解除され、10月から酒の提供も可能になったが、解除前とほとんど変わらない。利用客はすぐには増えず、まだまだ最寄り駅から帰宅する乗客ばかりである(東京都)。
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除されること自体は良いが、まだ客、特にサラリーマン客が戻っていない。これからどうなるか注目している(東京都)。
		タクシー(団体 役員)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されただけでは余り人流が増えなかったが、営業時間等の規制も解除されたため、今後人流が増えることを期待している。
		通信会社(営業 担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたものの、転居等の人の動きはまだ表立っては出ておらず、インターネットの契約数も横ばいである。
		通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・新規加入、コース変更共に、必要最低限の内容を選択する意識は相変わらず強い。
		通信会社(経理 担当)	単価の動き	・顧客数は増えているものの、単価が下落傾向のため、売上は現状維持が精一杯である。
		通信会社(総務 担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染再拡大の影響が強く、感染者数が減少した現在も営業機会の減少から回復できず、新規契約獲得件数が伸び悩んでいる(東京都)。
		パチンコ店(経 営者)	来客数の動き	・9月30日をもって緊急事態宣言は解除されたものの、今月24日までの飲食店に対する規制の一部緩和にとどまり、9月と比べ客足は伸びていない。年金支給後の15日以降は若干上向いたものの、勢いはまだ弱い。
		競輪場(職員)	販売量の動き	・新しい商品を提案してみたものの、投資に見合ったほどの効果はまだ出ていない。
		その他サービス [福祉輸送] (経営者)	来客数の動き	・9月下旬に緊急事態宣言が解除されたが、まだ人出はそんなに多くなってきてはいない。来月以降に盛り上がることを期待している(東京都)。
		その他サービス [保険代理店] (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍での悲痛感は見られない。慣れもあるが、景気の下向き感がなくなっている。一方で、景気上昇の期待感もない。
		設計事務所(経 営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス収束の兆しが見え始めたが、仕事量には変化の兆しが見えない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・相変わらず相談業務のみで話が前に進まない（東京都）。
		設計事務所（職員）	それ以外	・良くも悪くも状況に変化がない（東京都）。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・当社は不動産ディベロッパー業と総合建設業である。当社が都内と関東近郊の保養地などに所有しているホテルの運営状況が非常に悪く、規定の賃料が受け取れていない。今後、Go To Travelキャンペーンが再開されることを期待している。また、住宅の売行きも良くなく、工事請負業も少なくなっている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・毎年10月は少し落ち込むが、今年も同じような落ち込みである。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	それ以外	・ふだんなら10月はいろいろなイベントがあるのだが、全て中止となり、祭り関係の電気工事もできなかった。商材は、いろいろな物が平均的に少しずつ動いている。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	お客様の様子	・客との会話からやや悪くなっていると感じる。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	販売量の動き	・店頭部は、緊急事態宣言が解除されたこともあり、営業時間が伸びたので、何とか良い方向にしている。ただし、支店は、下階や横に入居していた銀行が統廃合で撤退したため、来客数が3割以上減っており、大打撃である。外商の方は、今月ははざ間の時期で物件がなかなかないこともあり、全体ではマイナスになっている。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	単価の動き	・来客数は前年並みだったが、ギフト需要が少なく、売上が減少している。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数が減っている。客単価は良いものの、来客数が減っているため、その分悪くなっている。これは天候や新型コロナウイルスが徐々に収束してきていることなど、いろいろな要因がある。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数、客単価共に前年を割っているが、買上点数が軒並み前年を大幅に割っていることが一番の要因である。買上点数の減少による売上の減少という厳しい状況である（東京都）。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されることにより、内食化傾向がなくなってきた、販売量が特に落ちている。ただし、買上単価と来客数は若干前年を上回っているため、売上は何とか前年をキープしている（東京都）。
		スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、人が動き出しており、内食傾向が少し薄れている。加えて、上旬は気温が高かったものの、中旬から一気に気温が下がり、売れる物が大きく変わっている。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言解除後の客の来店動向より、食品購入の客が減少し、より価格に敏感になっていると感じる。将来への不安から節約志向が感じられる。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数が減っている（東京都）。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響により近隣のイベントが中止になり、前年比95%と厳しい状況は変わらない。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・家電製品の一部で半導体不足や生産国のロックダウンなどにより、売れ筋商材の入荷状況が悪くなっており、結果として販売量がやや減っている。また、高単価商材の動きが鈍くなっている（東京都）。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・例年同様、9月の反動での減少が起きている。そこに半導体不足の問題も重なり、納車できないのが現状である。
		乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・半導体不足の影響で納期遅延の状況が続いているなか、客の購買意欲も低下しており、急いで購入しなくてもいいだろうと考える客が増えている。
		住関連専門店（統括）	来客数の動き	・自粛解除されたが、まだまだ人の出入りが少なく、それに伴い販売量も減っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・3か月前は長期団体利用があったため、今月より稼働率が高かった。10月は全体的に稼働率が落ちている。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・半導体不足の影響により機器の納品が遅れている。いつ正常に戻るか、先行きが見えない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・当社はテレビ、インターネットサービスを提供しているため、在宅時間が長いほど需要があるが、緊急事態宣言が解除され、在宅時間が減ったせいで、問合せが減っている（東京都）。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響から資金調達ができない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の約89%となり、3か月前と比べても約27%落ちている。5～9月までの5か月間の販売量は目標を達成していたが、今月は厳しい状況である。注文住宅の場合、住宅ローン控除の税制優遇を受けるための契約期限を過ぎてしまったことも販売量の減少につながっている。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（経営者）	競争相手の様子	・新型コロナウイルスが1日も早く収束し、元の仕事ができるような日常に戻ってほしい。
	×	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスや半導体不足の影響で、新車の仕入れが大幅に遅れている。
	×	乗用車販売店（渉外担当）	販売量の動き	・自動車の減産の影響が大きい。
	×	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	販売量の動き	・原油価格の高騰により、ガソリンを始めとして仕入れ値、販売価格も高騰しており、消費者に買い控えがみられる（東京都）。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・10月25日から営業時間等の規制が解除になるが、ラストオーダーが夜8時、酒類提供は夜9時までとなると、東京から帰ってきた人などは当店には飲食に來れない。そのため、夜はほとんど来店客がない。
	×	ゴルフ場（従業員）	それ以外	・都内の公園で月に2回弁当を配布する事業について報道されたが、じきになくなってしまうとのことである。生活困窮者が多いということだろう。新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきたとはいえない、まだまだ景気の回復には至らない。
企業 動向 関連  (南関東)		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社は酒屋なので、緊急事態宣言の状況次第で数字がどんどん動く。今後は更に良くなっていく（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月から当社特有の繁忙期に入っている（東京都）。
		建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・見積依頼が増えている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数も減り、通常の生活に戻りつつあり、明るい兆しが見える。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月に入って来客数、注文数が増え、売上が伸びている。しかし、会社関係、法事などはまだ動きがない。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言解除によりイベント等の制限が緩和され、集客イベント等が少しずつ動いてきている。案件の引き合いが非常に増えている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・印鑑、ゴム印、名刺印刷などを行っている。路面店なので店頭での来店客と、外売りの会社関係の仕事がある。今月は、会社設立の印鑑の注文が5本あった。ふだんは1本、2本、低迷した時期は全然なかったのに、会社設立の動きが出てきたのを感じている。当店で先を見越して仕入れるということはないので、問屋への支払は注文件数の分だけであるが、通常15～16万円のところ、10月は20万円の支払があり、一般のゴム印関係の注文も、例月と比べ、多くなっている（東京都）。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注、問合せが増えているが、半導体を始めとして建材等いろいろな物の動きが悪いので、良くなるように感じるのかもしれない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年同期比で売上が1割ほど増えている。新型コロナウイルス禍がまだ払拭されたわけでもないのに、必要な物は荷動きが出てきている。しかし、部品の入手が困難になっている（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・7月を底に若干回復しているものの、その後は横ばいの状況が続いている（東京都）。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い、飲食業が元を取り戻すとともに、全業種に対し心理的作用が予想され、建設業況の回復も見込まれる。
		金融業（総務担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言解除をきっかけに、飲食業やレジャー業で売上が伸びている。住宅関連も、テレワークが浸透しているため住宅を買う人が増えている。IT関係は、新型コロナウイルスの影響による半導体不足が響いており、パソコンやシステム関係の売上が落ちている。運送業は燃料価格の高騰と人手不足もあり、業況は厳しい。全体的には景気は上向いている（東京都）。
		金融業（役員）	取引先の様子	・緊急事態宣言の解除により、今後の期待感を含め、マインドとしては良化傾向にある。
		不動産業（総務担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言の解除を受け、飲食店舗は営業時間の延長、酒類の提供を再開したが、売上は2割弱の増加にとどまっているとのことである。オフィスビル内の店舗なので、いまだにオフィスワーカーが5割程度しか出社していないことが響いているようである（東京都）。
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・解散総選挙の特殊要因かと思う（東京都）。
		税理士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染者数が、理由は不明なもの激減し、緊急事態宣言が解除され、飲食店やイベントなどが以前の環境に戻りつつある。必ず来るといわれている感染第6波の到来がいつになるのか不安ではあるものの、今のところ兆しはなく、良い方向に向かっている。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・まだ新型コロナウイルス発生以前とまではいかないが、問合せの数も多くなってきており、受注量も1割ほど上向いている。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規受注が見込まれている案件がある。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルスが収束しているようで、客とも会えることが増えてきたので、営業チャンスが増加する（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	それ以外	・3か月前と変わらず、新型コロナウイルス感染拡大によるイベントの中止が重なり、売上が減少している。今後、政府の対策がどうなるか次第で変わることを期待したい。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で化粧品容器、医療品容器共に受注が下げ止まったまま、回復の兆しが見えない。東南アジア工場の操業回復など明るい見通しもあるが、勢いや確実性に欠ける。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響はまだ続いているものの、取引先を訪問し、コミュニケーションを取れるようになったので、今こそ営業努力を発揮して、仕事の確保を続けていきたい。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注は多くなっているが、機械部品や半導体等の不足、更に原油高、鋼材や樹脂の値上がりにより、計画倒れとなっている。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・当地域の不動産は動いているが、思った以上に値段は上がっていない。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・仕事量が増えている企業もあれば、材料が入らなくて仕事が減っている企業もある。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・一部に前年売上を上回る商材が出てきているものの、今月は土曜日全てが休配日で稼働日が減少したため、全体の状況に変化はない（東京都）。
		輸送業（経営者）	それ以外	・9月決算では前年比で売上が10%減少している。粗利は変わらず、売上が減少した時期もあったものの持ち直した3期前と比較すると、30%の減少である（東京都）。
		輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・物流量が伸び悩むなか、原油価格の上昇もあり、厳しい状況である。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・繁忙期に入ったが、物量が増えない。また、燃料価格の高騰により、収益が伸びてこない。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		不動産業（経営者）	取引先の様子	・賃貸物件の商談件数は相変わらず少ない。人の移動が抑制されていた状態ではやむを得ない。	
		不動産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍は終息しつつあるものの、宿泊需要はまだ増えてはいない（東京都）。	
		広告代理店（経営者）	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除され、人の動向が活発になっている（東京都）。	
		広告代理店（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルス禍での会社の状況もようやく落ち着いてきて、来年度の事業等の動きがはじめてきている。	
		広告代理店（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・相談件数は増えているものの、案件の規模や金額が低いいため、売上が余り伸びない（東京都）。	
		税理士	それ以外	・夜いつも歩きながら商店街の飲食店等を窓越しにのぞいて客が入っているかを見ているが、新型コロナウイルスの影響もあり、まだ全然客が入っていない。大分前からそのような状態である（東京都）。	
		社会保険労務士	取引先の様子	・返済不要の助成金や補助金を使いたい会社が多く見受けられる（東京都）。	
		経営コンサルタント	取引先の様子	・小売、飲食では緊急事態宣言解除後に客足が伸びているが、新型コロナウイルス発生以前の状況までには至っていない。	
		経営コンサルタント	取引先の様子	・金属加工の中小企業では、半導体装置関連の部品が増産で、大きく売上に貢献している。一方、食品関連の機器を製造している企業向けの部品等は、まだまだ下がったままである（東京都）。	
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数が減り、緊急事態宣言も解除されたが、イベントなどはまだ完全に戻っていない。例年行われていた全国イベントも無観客、リモートとなり、請け負っていた仕事がなくなっている（東京都）。	
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月から今年度の下期に入り、新型コロナウイルス感染対策の緊急事態宣言も解除されたが、受注状況が向上かない。	
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・本来需要期を迎えるのだが、前年と比べても勢いが無い。新型コロナウイルス禍で各社の販売促進活動が変化して、悪影響となっている。	
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここまでは取引先から事前に悪化すると伝えられているが、この先はある程度回復すると聞いている。	
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・主要取引先の自動車メーカーが部品調達不足で減産している。当社も稼働日を減らすなどで対応している。	
		その他製造業〔靴〕（経営者）	取引先の様子	・私どもの職業、職種は以前からそうだが、必需品ではないので、景気が悪くなると巻き返すことが非常に難しい。そういった意味では、レベルの高い生活者は別だろうが、景気回復にはどうしても時間が掛かる。	
		建設業（経営者）	取引先の様子	・建材や鋼材の値上がり止まらない。	
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・緊急事態宣言が解除され、時短営業も解除になり、明るい兆しが見え始めているものの、飲食業が一番苦労しているようで、長年当地で営業している店舗が廃業に追い込まれている。我々賃貸業も回復するには時間が掛かりそうである。テレワークのため、近隣の苦情が増えてきている。特に、飲食業の更新がスムーズにいかない（東京都）。	
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・見積依頼の件数が減ってきている（東京都）。	
		×	建設業（営業担当）	それ以外	・資材価格の高騰が継続しており、施主の予算とかけ離れている状況が悪化している。
	雇用 関連  (南関東)		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人に対して働き手不足で充足できていない。給与水準も上昇傾向にある（東京都）。
		学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・飲食店が営業を再開し、街に活気が戻ってきている（東京都）。	
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・緊急事態宣言が解除され、年末に向けて求人数が徐々に増加してきている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は3か月前比で180%強、前年同月比で130%強となっており、堅調に推移している。再就職支援に関する適時開示の社数や規模も前年に比べて落ち着いており、雇用調整は一巡感が始めている（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・求人数が軒並み復活してきて、新型コロナウイルス発生以前の水準に戻りつつある（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・デリバリーサービスのピッキング業務のオーダーが増えている。
		人材派遣会社（経理担当）	それ以外	・求人数はここ数か月特に大きな変動はなく、新型コロナウイルス発生以前の7割程度で推移しているが、派遣契約の終了数も依然として少ないため、全体的な派遣労働者数は微増している（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・9月末で緊急事態宣言が解除され、求人数が前年比110%程度まで上がってきている。宣言明け1か月での効果測定は難しいが、良くなっていくのではないかと。
		求人情報誌制作会社（営業）	求人数の動き	・夏が終わると同時に、新型コロナウイルス感染者数が減少してきており、それに伴い求人数も増えてきている。しかし、まだ以前のように仕事量が戻ってきていない企業が多くある。3か月前と比べればやや良くなってきているが、これからどんどん良くなっていく印象はない。
		求人情報誌制作会社（広報担当）	求職者数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数が減ってきているからか、世の中のいろいろな活動がまた活発になってきている。それに伴い、同業他社や自社での中途採用が多くなってきているように感じる。このままいけば、景気は更に回復していくのではないかと（東京都）。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月以降、新規求人数は新型コロナウイルス発生以前の7割程度で推移していたが、9月は9割程度に回復しており、企業の採用意欲に復調の兆しがみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人が増加傾向にある。また、正社員求人の割合も増加しており、アフターコロナを見越した採用活動が本格化しつつある（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・会社の業績や、周囲を含めた消費動向に変化がみられない（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	それ以外	・主力の人材派遣やアウトソーシングの受注数は堅調である。人材紹介は、新型コロナウイルス発生以前の8割程度まで回復してきているものの、受注数は低調傾向である（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・エンジニア派遣のニーズは前年比では良くなっているが、直近3か月間で見るとおおむね横ばいであり、景気は良いとも悪いともいえない。
		民間職業紹介機関（経営者）	採用者数の動き	・学生の動きはインターネットが中心で、リアルな対面接触が少ないためか、じっくり企業研究をする時間がないようである。ゲーム感覚で進めていると、ミスマッチや内定辞退が多く発生するのではないかと、来年の就職活動の結果が心配である（東京都）。
		民間職業紹介機関（経営者）	求職者数の動き	・全般的に経済の活性が感じられない。乗用車などの販売にも季節感が感じられず、製造部門でもひっ迫感がない。半導体などの供給不足などが報じられているが、需要の強さもない。新型コロナウイルスの影響は徐々に薄れており、経済の停滞感がある（東京都）。
		-	-	-
	×	求人情報誌制作会社（所長）	求人数の動き	・中小企業の求人の動きも仕事も、ほぼ変わっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・数字を見直すと最悪の状態となっている。

## 5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (甲信越)		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・買上点数が増加している。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・前年比で売上が20%しかなかったところ、今月は70%まで急速に回復してきている。ただし、売上ゼロに近いところからの回復なので、例年と比較すると、まだ売上が70%程度しかなく、インバウンドや会社関係、団体旅行は動いていない。今までどおりにまで回復するにはしばらく時間が掛かる。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後、個人客、ツアー共に復活しており、突然の大にぎわいとなっている。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月も墓じまいの依頼が多く、仏壇処分や永代供養墓の利用、葬儀の依頼も多くなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少や緊急事態宣言解除で、観光客が動き出している。しかし、自家用車による移動が中心であり、駅前立地の当店は、今一つである。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除になってから、客の来店数が若干だが増えてきている。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・現在は催事なども通常に戻ってきており、客足の戻りを感じている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・前年比で売上は15%増、来客数は9%減となっている。当市独自のプレミアム付商品券が販売されたことで、売上は伸びている。3000円の購入で、5000円分買物ができるお得なクーポン券のため、前年も販売したが大変好評である。新型コロナウイルスの新規感染者が劇的に減少し、このまま第6波は来ないで、とうとう終息するのではないかと考えている。マスクをして感染予防しながら、経済が回るとうれしい。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は、前年と比べて毎月良くなってきている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・土日の人出が増えている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスが落ち着き、やや良くなっている。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・当県では通常、農繁期は宴会や会合等は少なくなるが、新型コロナウイルス禍において外出機会の減少に慣れてしまったことも手伝い、来客数が減少していると思われる。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・客の声に明るい前向きな言葉が混じるようになってきたように感じる。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス新規感染者の減少と緊急事態宣言解除により、動きが活発化している。通常、選挙の時は販売に影響があるが、今回は重なった割には投票日までの期間が短いためか、影響は少ないようである。ただし、気温が低めなのでそちらの影響は出るかもしれない。災害の発生のないことを祈っている。有り難いことに、月次の支援金にかなり助けられている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数、売上いずれも、まだ良いとは言えないものの、明らかに上向いてきている。新型コロナウイルスの終息がみえてきたことが本当に有り難い。11月に新規感染者が増えなければ、今年は忘年会もできるのではないかと。そうなれば勢いが出てくる。居酒屋に行くことが禁止になっている会社はまだ多い。どこかのタイミングで政府から、解禁を呼び掛けてもらえるとうれしい。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・全国の緊急事態宣言が10月1日から解除となり、客の行動マインドが上がっている。今月の宴会売上は、今年度で最も多くなっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（副支店長）	来客数の動き	・客の動きが止まっていたが、少しずつ個人の来店客が増加してきている。旅行申込みも成約するケースが増加傾向で、回復の兆しがある。
		遊園地（職員）	来客数の動き	・前年の秋は来客数が新型コロナウイルス流行前の数に向けて、回復傾向となっていた。今年も徐々に来客数が回復傾向にあり、前年とさほど差異はない状況になってきている。最近、今年の中でも新規感染者数の減少が最も大きいので、回復してきている。
		ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスが終息局面にきているが、県下での感染対策強化が実を結んだものと思われる。ただし、客は高齢者が多いだけに、マスクの着用、アルコール消毒をしており、その他クラブ側でも徹底した新型コロナウイルス対応を試みている。高齢者が多いコースとしてこれからも頑張っていきたい。
		その他サービス 〔貸切バス〕 （経営者）	来客数の動き	・10月に入り、新型コロナウイルスの新規感染が収まってきたため、販売量が増えてきている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・規制が解除されたからといって、一気に客足が戻るわけではない。先行きの障害が不透明ながらもなくなった分、年配者もちらほらと街へ出始めている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスワクチン接種も落ち着き、徐々に生活も戻りつつある。ただし、半導体関連の商材不足やガソリン価格の高騰により、全体的に商材は値上がり傾向である。収入増加が見込めないなかで、消費者の財布のひもは緩められない様子がうかがえる。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・人が街に出てこない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・人の動きが全くみられない。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・景気の低迷により、来客数の減少が継続している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車の供給不足や中古車の商材不足の影響で、販売が滞っている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車検、一般整備は、今月の目標計画どおりとなっている。半導体不足による新車納期遅延で、購入をちゅうちょする客がいることも、売上が伸びない要因となっている。
		自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・客単価はやや上がってきているものの、来客数が伸びず、全体として売上が伸びない。景気は余り変わっていない。
		その他専門店 〔酒〕（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言も終わり、日常に戻りそうだが、また同じような感染の波が来たり、非常に低調だったりと、もう元には戻らないと思っている。そのなかでどのようにやっていくかということで、客の動きを観察しながら慎重に引き締めて今後も続けていかなければならない。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・新規加入は増加しつつあるものの、休止や解約の増加傾向も続いている。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・新規依頼数は減少していて、計画の進まない物件も出ている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、学校のクラブ活動がほとんど動いていない。当店のような専門店にはクラブ活動がないと、どうしても店頭販売がなくなってしまう。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前月は、たばこの値上げで特需があった。天候も涼しくなってきたので夏場よりは商材の日持ちが良いものの、客単価が低下しているので、やや厳しい。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・本来、昼にピークが来るはずだが、今日は午前中からずっと山がない。どういう理由かは今一つ分からないが、売上全体のピークがなくなったので、大分落ち込んでおり、やや厳しい。
		タクシー運転手	販売量の動き	・5～7月は徐々に上向いていたが、8～10月前半までは少し落ち気味である。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・以前に比べ反響が薄くなってきている。各社からスマートフォンの格安料金プランが出てきて、インターネット回線の乗換え自体が少なくなっているように感じる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス [クリーニング] (経営者)	単価の動き	・少しずつ人は動き出したが、クリーニング業は、原油価格の高騰がかなり苦しくなっている。高騰が続くと大変困る。
	x	スナック(経営者)	お客様の様子	・客の様子、来客の動きなどもあるが、景気は良くない。
	x	その他レジャー施設 [ボウリング場] (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に伴って客足が戻ってくるかと期待していたが、ステイホームの生活習慣が身に付いてしまっているのか、今のところその気配は全く感じられない。
企業 動向 関連 (甲信越)		*	*	*
		食料品製造業 (営業統括)	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の解除により、業務関係や一般酒販店への荷動きが徐々に回復しつつある。また、人流も僅かながら増加している。
		電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量はやや増えてきているが、部品の入荷状況が悪く、止まる可能性もあり、安心できない。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注は増加傾向にあるものの、資材価格の上昇や納期がはっきりしないことが、悩みの種でもある。
		金融業(経営企画担当)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が終息に向かっており、経済活動が徐々に回復している兆しを感じられる。
		新聞販売店[広告] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が徐々に解除され、経済活動や旅行部門では少しずつ人も動き始めていると感じている。
		食料品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・売上は前年同月比101%を達成したが、本調子ではない。
		窯業・土石製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・例年の季節商材受注はあるものの、受注数は減少している。ワークショップの予約状況も、依然として低迷している。
		その他製造業 [宝石・貴金属] (経営者)	受注量や販売量の動き	・卸売の動きが全くない。仕入意欲はなく、辛うじて委託販売で商材を回している状態である。緊急事態宣言解除で、催事の集客もしやすくなったとはいえ、まだ客数は戻っていない。ただし、来月以降への期待感が高まっている。
		金融業(調査担当)	取引先の様子	・製造業の受注水準は高いものの、半導体不足の影響やサプライチェーンの問題、原材料価格の高騰等が、景況感を下押ししている。非製造業は全国の緊急事態宣言解除に伴って景況感は改善し始めているが、引き続き水準感は低い。
	x	食料品製造業 (製造担当)	それ以外	・原材料価格が過去40年で最も高く、11月から更に値上がりするとのことなので、利益の出る状況ではない。
雇用 関連 (甲信越)		-	-	-
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・明らかに、飲食業や宿泊業からの求人が増加している。全体的に活気が出てきたように感じる。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数が増加傾向である。
		人材派遣会社 (営業担当)	採用者数の動き	・相変わらず、採用条件等は厳しく、回答までに時間が掛かってしまい、収入がなくなる方からの相談も増える一方である。
		求人情報誌製作会社 (経営者)	求人数の動き	・現在は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているため、求人広告への掲載企業数は多少増えている。
	x	-	-	-

## 6. 東海(地域別調査機関:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)

(-:回答が存在しない、\*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東海)		商店街(代表者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が収まってきて、皆幸せそうな顔をしている。
		一般小売店[土産] (経営者)	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除により、観光客の流入に比例し、販売数が増加した。
		百貨店(経理担当)	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除以降、レジャー・外食に関わる個人消費が急速に膨らんでいるほか、出勤・出張など企業活動も活発化している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が明け、新型コロナウイルスの感染状況も落ち着くなかで人の動きが活発化し、来客数が伸長している。平日の伸びだけでなく、週末の行楽需要も伸びており、菓子や飲料などの商品群の動きが上昇している。
		コンビニ（商品企画担当）	来客数の動き	・10月に入り、緊急事態宣言の解除や新規感染者数の減少により、来客数が増えている。平日は前年並みの水準まで、週末は前年以上の水準まで回復した。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・全体的な動きは良くなっている。
		その他専門店〔雑貨〕（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言解除後の来客数が前年比で大幅に伸長している。
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響が段々と薄れてきている。それにより景気が回復することを祈る。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・8月下旬から9月末まで、神宮周辺の公共駐車場は全てシャットダウンしてマイカー・観光バス利用客を全て排除し、観光都市の生命を断ち切った。その結果、9月は前年比で僅か5%の観光客となり、休業する店舗が9割であった。緊急事態宣言は10月に解除されたものの、いまだにマイカー利用客は前年比50%、前々年比30%程度の戻りである。観光バスは、行き先を失った県内の修学旅行が若干あるが、一般団体は皆無である。来るな来るなと言った悪影響がまだ続いている。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	販売量の動き	・年度予算の消化が始まり、販売量が増えた。
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が明け、最悪の時期は脱したように思える。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除され、日を追うごとに売上は右肩上がりの状況である。中でもおせちの売上の伸びは顕著で、家で過ごす客や一点豪華的な消費が見受けられる。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されて、週末を中心に来客数が前年を上回る日も出始めた。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、10月前半は客足が緩やかに増加した。後半になると新規感染者数の減少が続いたため、人出が戻ってきた。長居する客はいないが、一時期はなかった回遊客が増加傾向にある。自粛の反動で高額品の動きもあるが、中低単価品の稼働が目立ち、購買意欲の高まりを感じている。
		百貨店（業績管理担当）	販売量の動き	・10月に緊急事態宣言が明けたことで、来客数や売上が明らかに好転している。
		百貨店（計画担当）	お客様の様子	・コロナ禍は収束してきているなかで、少しずつ来客数が増えつつあるが、まだ思ったほどの回復がみられない。消費者の行動様式自体が変わっており、すぐに急激な変化は起きにくいと思われる。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数は増加しているが、飲食店は全て客席を減らして営業しているので、満席であっても売上増加には限りがある。路上販売店は、来客数と比例して順調に回復しているように見受けられる。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されて来客数が増えた。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・週末を中心に人の流れが増えているのが実感できる。週末の商品の販売率も上がっている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・周辺の飲食店等も来客数が増えている。特に飲食店は夜遅くまで営業を再開している。
		コンビニ（本部管理担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、今月の売上前年比は99.2%である。世間では、新型コロナウイルスの再流行を見据え、11月末までに忘年会や旅行を楽しむ雰囲気である。連動して10月は世間の動きが活発で、小売業の売上は安定している。明らかに3か月前の重苦しい雰囲気はない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・職人の客では仕事が増えてきている兆しを感じる。ただし、慎重な購買行動は続いている。一般客の財布のひもは固い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (売場担当)	お客様の様子	・宝石等の高額商品に加え、これまで買い控えが続いていたスーツなど紳士服を購入する客が増えてきている。
		衣料品専門店 (売場担当)	販売量の動き	・急に寒くなってきたためスーツの需要が高まった。これまではクールビズでパンツだけ、若しくはシャツだけを購入する客が多かったが、今はスーツが主になってきている。
		乗用車販売店 (営業担当)	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除されて、飲食店などは来客数が明らかに増えていると思う。客との会話のなかでも、外食をしたとかどこかに出掛けたという話をよく聞くようになった。
		乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・外出する人が多くなってきて いろいろと動きが良くなってきたように感じられる。
		乗用車販売店 (従業員)	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、皆半信半疑ながら良い方向に向かっている。
		住関連専門店 (営業担当)	単価の動き	・緊急事態宣言解除とともに、商業施設を中心に今まで保留になっていた現場でリフォームや小規模改修を含めて小さい案件から動き始めている。先々の現場についても、動く見込みが強くなってきている。
		その他専門店 [貴金属](経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されて、少しずつであるが、客の動きが出てきた。
		バー(経営者)	お客様の様子	・完全に規制がなくなって出歩けるようになっている。まだまだ自粛する会社もあるが、大手を振っている人もいる。
		その他飲食[仕出し](経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言解除と新規感染者数の減少で、流れは良くなりつつある。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・まだ知らない人も多いが10月18日より県の観光需要喚起策がスタートした。大分外出する傾向も出てきてやや良くなっており、来客数の動きは増加傾向にある。
		都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染対策の規制が緩和され、やや良くなりつつある。
		都市型ホテル (営業担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言解除を受けて飲食施設、宿泊には客足が戻ってきて、コロナ禍前の80%程度まで回復した。法人宴会は変わらず、自粛が続いている。
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解けて、出張と週末需要の宿泊が少し増えた。ランチも増えてきたがディナーは増えない。宴会は、11月の問合せはあるものの少人数である。忘年会・新年会はない。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・10月から県の観光消費喚起事業費補助金の交付が決定したため、少し動くようになってきた。
		旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・観光業は、新型コロナウイルス新規感染者数に尽きる。新規感染者数が減少すると個人旅行の申込みは増える。また、自治体の宿泊割引等が出て、それを利用した宿泊が増えている。しかし、リバウンドが起きるとその予約は取消しとなる。今月は旅行申込みが劇的に増加しているが、後は新規感染者数次第である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が9月末で解除され、ちょうどタイミング良く10月1日は金曜日だったため、久しぶりに夕方から出掛ける客でかなりタクシーも動いた。また、結婚式場などでも少しずつ客が増えていたり、出張で新幹線を利用する客も徐々に増えている。
		通信会社(サービス担当)	販売量の動き	・在宅勤務や家庭で過ごす時間が増えたため、ネット環境を検討する人が増えた。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・新規サービス契約による工事増加により、販売量が増えている。
		レジャーランド (職員)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、平日は学校団体客を中心に回復傾向にある。土日の個人客は前年と比べると少ない。Go Toキャンペーンのあった前年と比べ、客単価は下がっている。
		テーマパーク職員 (総務担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、期待できる。
		ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・今月はほぼ天候にも恵まれ、入場者数は好調である。3か月前と比べ、予算及び前年比において上回っている。しかし、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解かれた今も、レストラン部門の売上は伸び悩んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他レジャー施設〔鉄道会社〕（職員）	来客数の動き	・観光列車への予約状況が好調である。通勤通学や休日旅客も回復に向かっている。
		その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	それ以外	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少し、毎日の報道でも新規感染者数がクローズアップされなくなってきたので、世の中の雰囲気明るくなってきている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・売上は今までと変わらずそれほど良いわけではないが、客の話にイベント、旅行や外食などの明るい話題が増えてきた。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・案件数が微増している。やや良くなっていると評価してよいほどかは分からない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数にさほど変化はないが、このところ電話注文の需要が減少して配達がほとんどゼロに近い状態になったため、販売量につながらなかった。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・取引先の状況を聞くと、緊急事態宣言が解除されても全く上向いていないとのことである。客も消費をしないことに慣れてしまっており、なかなか動きが鈍いようである。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・週末の人はかなり増えた。しかし、消費につながらない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除になっても、来客数はなかなか回復してくれない。必要なときだけしか出掛けない習慣になってしまうのが怖い。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	来客数の動き	・10月17日で県の厳重警戒措置が解除され、夜の飲料中心の店もリスタートしたが、客の戻りは限定的で、新型コロナウイルス発生前には程遠いのが現状である。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・平日の来客数はそれ程ない。夕方にはサラリーマンの来店もあると見込んでいたが、やはり新型コロナウイルスの影響が、まだ平日の来客数は少ない。土日になると家族連れや友人同士での来店で来客数が増え、売上が少し伸びている。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・来客数はあるものの、購入率が低い。
		スーパー（営業企画）	お客様の様子	・緊急事態宣言解除後、来客数、買上点数が減少している。ただし、外食に対してのリベンジ需要による一時的な内食需要の低下と思われるので、実質的な景気状況は変わっていないと考える。
		コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたが、人の流れはまだ回復していない。前年割れをしている店舗が多く、前月と比べ余り変わっていない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され近隣の飲食店等では客が多少増えている様子であるが、当店では余り動きは変わらず、夜の来客数もほとんど増えていない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・夜7時を過ぎると来客数が減る。第6波に備え慎重な人が少なからずいるようである。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・会話不足の客が気分転換に買物に出てくる。コロナ禍の外出控えで来客数は減っていたが、何度もアプローチをして来店してもらおうと、日々の自分の体調が大事で、今更景気に左右される様子はなく、これからの季節用の高額なカシミアのセーターやコートなどを購入してもらった。
		衣料品専門店（販売企画担当）	お客様の様子	・客と話をしても、ファッションを楽しもうとが防寒着を新調しようとは思えない、先が分からないという声を聞く。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・売上の伸び率が落ちてきた。勢いがなくなっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・受注は好調であるが、半導体及び一部の部品不足により、納車に問題がある。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたにもかかわらず、客の動きは余り活発にはなっていない。部品不足による減産の報道も関係しているように感じる。新車購入を考えると、客は自分が好きな車を手に入れることを望むので、やはり納期が決まらなると購買意欲が強く持てないと言われる。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、ほんの少しだが空気が変わった感はあるが、販売量は上向いてこない。そもそも商品がなかなか入ってこない状態が続いているため、納期が掛かり、来店があっても販売に結び付きにくい。
		その他専門店 [書籍](店員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスも落ち着いてきたため、金が旅行や外食などに流れているように思われる。コロナ禍での巣籠り需要も減ってきているため、売上は落ち着いている。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・飲食業だけでなくいろいろな職種の客の話を聞くと、全体的に上向いているとのことである。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・10月になり緊急事態宣言が明け、少しずつ客が増えてきたように感じる。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・コロナ禍で客の外食の機会が減り、客は外食などにまだ抵抗があるようである。
		一般レストラン (従業員)	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後、家族での食事や法要などが徐々に戻ってきている。
		その他飲食[ワイン輸入] (経営企画担当)	お客様の様子	・全国で緊急事態宣言が解除され、客の様子がどのように変わるか注視していたが、すぐには変わらない。しかし、質の高い物を求める客は確実にいる。
		観光型ホテル (支配人)	来客数の動き	・3か月前の宿泊客数は前年比100%近くあったが、今月は60%台にとどまっている。一般宴会は、前年比では50%あったとしても、前々年比では10%程度にすぎない。食堂は、緊急事態宣言の解除があり前年の90%を超える利用状況になっている。全社的にはまだまだ悪い。
		旅行代理店(経営者)	お客様の様子	・緊急事態宣言も終わり人通りが増え、ターミナル駅前では一部のレストランや店には客が増えたようだが、店長の話では以前のように戻っていない。旅行代理店でも、来店客はまばらで今後デジタルトランスフォーメーションが進み、ますます店舗はいらなくなる。駅前のメガバンクのATMも、10月から半減している。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・10月15日～11月30日の期間限定で県の観光振興策が実施されていて、個人の旅行需要は増加している。ただし、期間限定なので、期間終了と同時に以前の悪い状態に戻らと思う。
		旅行代理店(経営者)	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除と新規感染者数の減少で、前月までより新規問合せがあった。県の観光支援策も始まったが、電子マネーを使った仕組みが複雑で還元率も余り魅力的ではなく、Go Toキャンペーンの代替とはならない。県内旅行で宿泊するよりも、身近にげいたくできるGo To Eatキャンペーンやプレミアム付商品券の方が効果がありそうな様子である。全国的なGo To Travelキャンペーンがあった時期のような仕事量には戻っていない。医療従事者、保育や教育関係の仕事の人は、まだまだ旅行は厳しい様子である。旅行会社には飲食店のようにはすぐには支援の効果が反映されないため、11月以降も支援策を考えてほしい。
		旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は激減しているが、個人旅行は、徐々に問合せが増え始めているといった状況で、数字に表れるほど回復しているという状況ではない。団体旅行は、依然中止傾向である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・最低が続いており、上がる要素がない。
		通信会社(企画担当)	販売量の動き	・新規契約件数は計画の7割ほどで、解約件数も引越しを除くと例年より低いレベルとなっており、市場が停滞しているように感じる。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・インターネット系サービスの廃止の注文ばかりで、新規契約が減ってきている。他社乗換えではなく、利用しないことによる廃止が目立つ。
		美顔美容室(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少したためか、これまで出控えていた客が戻り始めた。
		住宅販売会社(経営者)	競争相手の様子	・土地の売物件が少なく、高価で取引されている。
		住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・来年3月までの売上物件は9月で終わり、10月は少し余剰分があった様子である。停滞感も感じた月であった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少してきているが、まだ販売量に変化は見受けられない。
		商店街（代表者）	それ以外	・商店街や郊外店も含めて広範囲で飲食店を主として小売店舗の閉店、廃業が相次いでいる。空き店舗が目立ち、後釜の出店も余りみられない。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・3か月前と比べてイベントの開催が少し多くなってきたので、景気は上向きにある。法人客は持ち直しており、個人客はまだ少し厳しい状況が続いている。全体を押し並べると若干良い方向にあるが、新型コロナウイルスの感染対策、ワクチン接種が進み、少し世の中が明るくなってきたということであろう。若干だが気持ち的にも良くなってきており、それが売上にも表れている。
		スーパー（店員）	お客様の様子	・日中の温度が30度から20度になり、白菜や練り物などの鍋関連商品が売れ始めた。ただ天候が良すぎて野菜が安価なので、売上が今一つ伸びなかった。
		スーパー（ブロック長）	お客様の様子	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少とともに客は外食に目が向き始め、総売上の減少となった。また、新規の大型商業施設の開店により来客数が減少した。
		スーパー（販売担当）	競争相手の様子	・近くに競合店がオープンした。対抗策を打つが影響はある。
		スーパー（商品開発担当）	販売量の動き	・売上は3か月前と比較してやや下がっている。緊急事態宣言が解除され、内食、中食から外食へややシフトした影響があると考えられる。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・工事関係者の来客数が少なくなったように思う。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	単価の動き	・来客数、販売量共に前年割れであった。新型コロナウイルスも落ち着き来客数は少しずつ戻ってきているが、高齢層の来店は少ない。若い世代の来店は増えているが、大物商材を買っていた高齢層の客が減ったままで、販売単価、販売量共に下がっている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新規客の来店が半減しており、新規客からの受注が5%以下である。何とか自社客の買換えで販売台数を確保している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・半導体や部品供給の遅れで、新車を契約しても車がいつ入るか分からない。そのような状況が更にひどくなっていて、納期が頻りに変動し客と約束ができないほどひどい。収束する見込みも立たず、不安しかない。中古車市場も高値が続き、下取車も新車の納期遅れでなかなか入らず、自社在庫も減ってきており、非常に厳しい状況である。
		テーマパーク（職員）	お客様の様子	・現在は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているため集客は多いが、いつ第6波が来るか分からないので、今後の様子が分からない。
		観光名所（案内係）	お客様の様子	・県の厳重警戒措置が解除され、今月後半は人出が多くなってきたが、街中の店への影響は全くない。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・客が余り来てくれない。
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・客からは景気の良い話は全く聞こえてこない。衆議院選挙ということもあって、全く動きがないと感じている。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	お客様の様子	・医療関係の仕事が増え他社で人手不足による人員の確保ができなかったため、当社に仕事が舞い込んできた。どこも人手不足は大きな問題点である。少しでも早く経済が回復すればよい。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	販売量の動き	・10月に入り緊急事態宣言も明け、期待をしたが例年の客足の約半分という結果になってしまった。
	x	スーパー（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、新規感染者数が激減し飲食業が通常に戻りつつあることで、土日の昼間や平日の夜間等の来客数が減少し、売上に前月のような勢いがなくなった。
	x	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・世界的な半導体不足で生産ができない状態である。生産のめどもはっきりしないので、現時点で売車がない。厳しい状況が続いている。
	x	パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きから景気は悪くなっていると判断する。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	理容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染は、天分落ち着いてきた。
	×	住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・リフォームを主に仕事をしている大工は忙しく、新築を主としている大工は暇らしい。
企業動向関連 (東海)		*	*	*
		化学工業（総務秘書）	それ以外	・緊急事態宣言が解除され目に見えて人が動くことは、景気の高揚を感じずにはいられない。飲食店は予約をしなければ入れない、あるいは予約もできないという新型コロナウイルス発生前の状況に戻った。長らく休店していた飲食店も再開し、新規感染者数が若干増えることがあっても、断続的な緊急事態宣言は出ないと見込む経営者の判断も感じられる。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	それ以外	・緊急事態宣言が解除され人流も増え、外食や旅行へ出掛けようと思う人が増えている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前々年までとはいわないが、物量が回復基調にある。
		通信業（総務担当）	それ以外	・新型コロナウイルス新規感染者数が急減したことで、飲食店の規制も解除され、Go Toキャンペーンも再開されると予想できることで、消費マインドの上昇を期待している。気分が明るくなっている。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染状況がひとまず落ち着き、人出が戻ってきた様子である。日常の経済活動も活気を取り戻している。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・飲食を外でという風潮が戻ってきていることが、一番の原因である。
		不動産業（経営者）	それ以外	・例年同様に晴れの日が多いことと緊急事態宣言解除の良い影響もあり、外出や遠出をする人が徐々に増加傾向にある。売上は前年を上回る状況になってきている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍の終息感からか、問合せの数が多くなってきており、価格も上昇気味である。
		会計事務所（職員）	それ以外	・ショッピングモールや映画館が以前より混んでいる。飲食店も、ランチタイムには待っている人もいるくらいである。
		窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・中国からの原材料供給不安という情報が伝わり、在庫確保のための先行注文が増えている。2～3か月は受注量の多い状況が続くそうである。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売量が低調な状況である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注自体は好調だが、部品供給などの問題があり、実績がどうなるか不透明な状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客先業界においては緊急事態宣言が解除されても設備投資はなかなか始まらないため、現在も景気の悪い状態が続いている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・業種によってばらつきがあり、良いところとしては、特に工作機械関係が若干動いているが、自動車関係は落ち込んでいる。全体として見た場合には、決して景気が良い状態には思えない。
		電気機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・高速通信機器の受注は継続して好調であるが、半導体部品の供給不足が懸念材料である。ケーブルテレビのネットワークを高速化するための、エリア全体を光化する工事は一段落している。
		建設業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で遅れていた仕事の実行できるようになってきたと聞くが、材料がない状況で、仕入れ面ではまだ新型コロナウイルスの影響を受けて遅れている。年内は、たまっていた仕事をこなしていくだけの状況である。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車関連など部品不足で減産している業種はあるものの、他の業種は前年より増産となっている。一方、流通系は今春以降は前年の特需がなくなり、前年比で10%ほど物量が減少している。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量は少しずつ回復してきていて、新型コロナウイルス発生前の水準に近づきつつある。ただし、荷主の業種によっては相変わらず低調なところもあり、業種によって明暗が分かれている。緊急事態宣言解除の効果がこれから出るかどうか不明である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・年末に向けて、国際貨物の動きは堅調である。
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきて人々の動きに活気が戻ってきているとはいえ、まだまだ飲食や観光関連の企業は厳しい。新型コロナウイルス発生前の水準には戻らないという企業が多く、戻らない前提で対策を考えている企業が多い。
		不動産業（開発担当）	受注価格や販売価格の動き	・不動産価格は高止まりしており、ここ数か月での値上がりは見受けられない。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言の解除から、消極的ではあるが少しずつイベント等の広告受注が増えてきている。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込チラシの受注をみても、さほど前月と変わらない。
		行政書士	受注量や販売量の動き	・宅配便の下請業者は、ある宅配便会社の荷物は減っているが別の会社の荷物は減っていないという。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	受注量や販売量の動き	・WebサイトやFaxで一定の受注はあるが、来客数は限られている。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・全体的に動きが停滞している。新しい提案が全くない。大手の動きが止まっているのだろう。しかし、新型コロナウイルスの感染が今のように低位の状態にある場合には、あるときに一気に動き出しているいろいろな部品が入荷しづらくなるため、欠品が出るおそれがある。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・閉店等の取引先も多く、全体的な受注量からみると減少し続けている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響、半導体不足、原材料不足等もあいまって、全般的に消費は冷え込み状態が続いている。景気はやや悪い。
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏場に比べて加工量が少しずつ減少している。8月と比べて2～3%ほどだが、秋からは受注が増えていく季節要因を考えると、この時期の減少は痛い。
		金属製品製造業（従業員）	取引先の様子	・原材料の価格高騰がとにかく止まらないので、コスト高が収益を圧迫しており、せつなく仕事が出てきても利益につながりにくい。
		一般機械器具製造業（営業担当）	それ以外	・電子部品が調達できず、製品の製作、出荷ができない状況となっている。納期が長期化するため、客の生産計画に間に合わず、引き合い自体が消滅するケースも出てきた。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	受注量や販売量の動き	・生産量が前月比3分の1くらいである。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・半導体不足や東南アジアからの部品供給が滞っているため、完成車メーカーが減産しており、その影響を受けている。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・分譲住宅の繁忙期である秋の商戦で来場、契約とも伸びない。13年間のローン減税が11月契約で終了となるが、それでも動きが悪い。他社情報でも当地域の動きが悪い。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前の1日当たりの荷物取扱量は、コロナ禍真ただ中の前年と比べてもトントンであった。ところが、10月に入り1日当たりの荷物量は前年同月比で2～3%減少している。前年もコロナ禍であったし、最近の新規感染者数の減少に鑑みればもっと伸びてもよいと思うが、逆の動きなので、まだ景気は下向きではないか。
		通信業（法人営業担当）	競争相手の様子	・最近、応札する競合他社の顔ぶれが違う。大手より地場企業が多く、しかも入札額は前例のないほど低額で、労働力を持って余すならば、利益がなくとも仕事が欲しいというような価格設定にみえる。
		通信業（法人営業担当）	それ以外	・ガソリンや小麦粉の価格上昇や半導体不足、生活困窮者に関する統計が驚くほど悪い数字となっているなど、かなり景気が落ち込んでいるように感じる。
		公認会計士	それ以外	・客先の中堅・中小企業の業績が厳しい。特に、コロナ禍による操業度低下による固定費負担額が借入金等に変わり、将来への大きな負担になっている。中堅中小企業の従業員の給与は上がっておらず、むしろ下がっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	会計事務所（職員）	受注価格や販売価格の動き	・製造業では、金属価格が高騰し仕入価格が上昇したため、販売価格を上げざるを得ない状況になっている。また、中国では電力制限により工場の稼働率が下降し、輸入商品が国内に入りにくくなっており、値上げと販売量の減少が同時に発生するという、以前より厳しい状況である。
雇用 関連  (東海)		*	*	*
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・自動車関係の客からは、2～3か月後の開始ではあるが、電動化に関係する業務を中心に派遣と請負で引き合いが数件発生している。
		人材派遣会社（企画統括）	求人数の動き	・新規求人数が前年同期比で増加している。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣求人数が徐々に回復しており、3か月前との比較でも増加傾向にある。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染症による部品供給不足、半導体不足の自動車生産への影響は、当初のもくろみを上回り、大幅な減産となったが、部品在庫の確保も進みつつあり、今後の減産は回避できそうである。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	それ以外	・緊急事態宣言の解除により、各業界で営業活動が活発に動き出した。それに伴い求人数なども増えてくると考える。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年同期と比べ増加している。輸送用機械器具製造業の求人数の大半を占める自動車部品製造業の求人数は、前年同期と比べ大幅な増加傾向が続いている。半導体の供給不足や東南アジアでの新型コロナウイルスの感染拡大による部品の供給不足は依然としてあるものの、受注そのものは多く、新規求人数は好調を維持している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数が増加に転じた。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人は堅調であるが、求職者の動向がやや停滞しているように感じる。
		職業安定所（次長）	求人数の動き	・職業別有効求人数の前年同月比を3か月前と比較すると、サービス関連の職種で僅かに減少がみられるものの、ほとんどの職種で上回っており、全体でも5か月連続で増加し、増加幅も伸びている。ただし、前年同月はコロナ禍の影響を受けており、前々年同月との比較では全体として大きく下回り、コロナ禍以前の水準には達していない。
		人材派遣業（営業担当）	周辺企業の様子	・いまだコロナ禍において景気回復の兆しはみえず、多くの企業は自社を守り抜くことを第1に考え、事業を継続している様子である。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・緊急事態宣言が明けても、ホテル業界はまだ変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの影響を受け疲弊した地元の経済だが、新規感染者数の減少もあり、今後は経済活動が活発になると期待するが、今のところはまだない。観光系企業でのPR活動が少し動き始めた程度である。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・企業の採用動向をみると、求人数が増加する割には採用基準が厳しく、採用件数は横ばいである。即戦力を求める傾向が顕著である。
	民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・下期に向けて必要人員を再設定し、転職希望者が増加する要素も絡めて企業は積極的に採用確保に動いている状況である。	
		-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北陸)		商店街（代表者）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンがあった前年と比べて70%、前々年比では65%と持ち直しの兆しがみえる。来客数は増加傾向にあるが、前年同様に平均単価が上がらない。緊急事態宣言が長く続いた影響で、飲食店を中心に人手不足で回っていない店が多い。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除され、8日からはGo To Eatキャンペーン食事券の再販売も始まり、個人客を中心に客足が伸びている。
		一般レストラン（統括）	お客様の様子	・10月1日より金沢市のまん延防止等重点措置が解除され、徐々に県民が外出するようになってきている。併せて観光客や出張者も増えている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・大手デパートの創業祭や物産展は盛況である。気温が急激に下がったため、冬物衣料、若者向けの初冬カジュアル衣料も勢いづいてきている。トランジットモールの社会実験が久しぶりに開催されてにぎわいをみせたが、商店街の売上回復にはまだまだ時間が掛かるとみている。新型コロナウイルス感染症の終息が絶対条件である。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・デイリーは前々年より少し落ちているが、景品等の注文が増えてきていることから、前年よりはややプラスの傾向となってきているようである。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等が解除されてから徐々に人の動きが出てきたが、本調子にはまだまだこれからである。取引先の飲食店に聞くと、早めの時間帯から客は戻ってきたが、午後9時になると誰もいなくなるとのことである。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・前月辺りから来客数の増加が日々続いている。他の業界もそうだと思うが、客の外出や来店が増えていると考える。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・9月30日でまん延防止等重点措置が解除され、徐々に客が戻ってきている。前年実績のある食品物産催事は、開催期間を変更したため今年は開催がない。また、月末最終日は衆議院選挙の投票日とマラソンの開催による市内中心部への交通規制の実施などマイナス要因が重なったが、店全体では前年実績を超える見通しである。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・冠婚葬祭や旅行といった動きが見え出し、関連したフォーマルウェアやアウターなどが動き始め、今まで不振だった婦人ブランドでも前年を超えるショップがはじめてきている。気温の低下によりコートなどの防寒用品や寝具関連の高額品が好調である。
		百貨店（販売担当）	販売量の動き	・来客数の増加に加え、購買行動にも積極性が出ている。旅行や結婚式などの需要が少しずつ増加し、それに伴う衣料品の需要が拡大してきている。また、気温の低下もあり、コートやブルゾンに加えて肌着やパジャマなどの実需品の購入が拡大しており、季節前に買う傾向である。また、高齢者の来店が増加し、久しぶりに来たという声やまとめ買いする姿も見受けられる。県による消費喚起策が非常に大きな影響を与えている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・新規感染者数が減少したことにより繁華街の人出が増加している。そのため店舗の来客数も週末を中心に増加している。昼間の客の流れが新型コロナウイルス発生前に戻りつつあったところに、夕方や夜間、週末なども客が戻りつつあることで、景気は上向ってきていると考える。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が収まってきたことは明るい材料であるが、客はまだ安心しておらず、以前の業況に戻るにはまだ時間が掛かりそうである。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きが見えてくると全体的に人流が多くなり、消費に対して前向きになってきているようにみえる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・来客数と購買点数共に増えてきている。特に会員対象の販売会では、コロナ禍前ほどの集客と売上の回復があり、客の表情も穏やかに感じる。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、ようやく人の動きが増えたようにみえる。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・10月に入り新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着き、県民割引も再開され、週末を中心に予約が入っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が解除となったが、宿泊部門は前年並みである。レストラン部門は来客数が徐々に戻ってきている。宴会部門は、引き続き企業における夜の宴会が全くなく、昼の会合利用にとどまっているが、昼の利用件数は前年より増えている。
		都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除された10月以降、平日のビジネス利用客が増え、前月より稼働率が10%以上アップしている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・県内旅行の割引補助のお陰で何とかGo To Travelキャンペーンがあった前年の売上をクリアできたが、団体旅行の動きは純く先行きの不透明さは変わらない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・10月から、当地のまん延防止等重点措置が全面解除になった。また、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向で1けた台になり、週末を中心に夜の街に人出が少しずつ戻るようになってきている。しかし、外出自粛が定着したことや衆議院選挙の関係で、タクシー利用は低調である。
		タクシー運転手	販売量の動き	・テレビの撮影が県内で複数回あったことに加え、営業関係の人も少し増えている。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新商品が発売され、例年ならもっと販売台数の増加に貢献するのだが、在庫入荷が予想より少ないため、販売が伸び悩んでいる。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送共に獲得した契約者数が、コロナ禍前の前々年同期を超えてきている。
		テーマパーク（役員）	来客数の動き	・ワクチンの接種が進むにつれて、感染拡大が落ち着きをみせ、人の移動や人流の制限も緩和されてきており、観光客も徐々に戻りつつある。また、県民割引等の需要喚起策も開始され、2～3か月前と比較すればやや良くなってきている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・前年同月と比べて売上、来客数共に10%ほど伸びている。また、飲食関係も地域振興策でかなり忙しそうである。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、客の動きが少しずつ戻っているようである。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・イベントや催事があると、人通りの多いときがみられるようになってきたが、平日は相変わらず人出は少ない。人出があっても手荷物を持っている人は少なく、財布のひもは固い。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	単価の動き	・リモートワークの会社が多いため、仕事に必要な文具などの需要は変わらない。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・新規感染者数が減少傾向になり、時短要請なども緩和されたが、すぐに状況が変わるわけではない。
		スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・近隣に大手スーパーマーケットが開店したが、来客数の動きが思いの外落ちない。価格競争による来客数の維持が主な要因かとみているが、新型コロナウイルスの感染状況の落ち着きもあり、買い回る頻度が上がったのではないかと考える。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客単価が変わらない。
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・首都圏の緊急事態宣言が明け、状況が好転するかにみえたが、まずは外食しようという様子である。現在は18～20時の来客数が大幅に減少した状態である。
		家電量販店（本部）	販売量の動き	・前月と比べると、大物商材が若干回復しているが、全体では厳しい状況が続いている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・メーカーから新車の入荷状況が依然として悪いので、売上がなかなか戻ってこない。前年比で80%くらいの売上が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
x		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・半導体や自動車部品の供給の遅れによる減産が続いており、受注残はあるものの売上に結び付いていない。この状態が年末くらいまで続くともみている。
		住関連専門店（役員）	販売量の動き	・ウッドショックや新型コロナウイルス感染症などの外的要因で販売量が左右されることが比較的多く、確実に需要が伸びている感じはない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・当地のワクチン接種率が70%近くまできている。Go To Eatキャンペーンも始まって、今後少し売上が伸びることを期待しているが、どうなるかはまだ分からない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	お客様の様子	・新規感染者数が県内及び全国共に減少し、各種制限が緩和されて経済活動再開の動きがあるものの、消費者の動きに急激な変化はない。気温変化による実需品の購入はあるが、旅行や外出といったコト消費から波及するモノの消費はまだ低調である。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・契約者数自体に大きな変化はなく、現時点では景気の変化はみられない。
		その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	お客様の様子	・1か月半の休業を前月末に解除した。新規感染者数が劇的に減っているが、いつ再拡大するか分からないという不安のなかでは、販促を再開してもなかなか新規入会には結び付かない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・10月以降の客の動きを心配していたが、大きな変化はみられない。受注高についても計画を達成できている。しかし、まだまだ経済が順調に回っていないので、予断を許さない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・外食需要の活気が戻りつつあり、スーパーマーケットでは特に夕方の来客数が減少傾向である。
		スーパー（店舗管理）	販売量の動き	・新米の販売が10kgから5kgにシフトしている。また、大パックの動きが明らかに落ちている。客へのアンケートでも大容量パックは必要ないなどの意見も多い。独自クーポンも金額設定を低くしないと使用率が落ちる傾向にある。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・今日は珍しく客足があり多少期待していたのだが、中旬頃から悪くなったまま月末となり、なかなか思うようにいかない。
		住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・10月に入り客足の鈍化が目立つ。通年でみれば集客期に当たるが、客足が伸びないどころが落ちている。
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・今年はGo To Travelキャンペーンが実施されていない。また、緊急事態宣言の解除後の再拡大防止のための制限期間のため売上は前年の41%である。	
企業 動向 関連  (北陸)		*	*	*
		食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍のもとで好調に推移している家庭消費向けの市販用カテゴリーは、一巡して前年並みで落ち着いている。同じくテイクアウト需要向けに引っぱり張られて好調な業務用カテゴリーでは、直近の自粛解禁ムードが手伝い外食向けも息を吹き返しつつある。全体として販売面ではプラス要素が勝っている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・助成金の影響があり、引き続き工作機械の受注は増え続けている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月の月次決算では、前年同期と比べて完成工事の計上が多かったことから、売上高が大幅に上昇し営業利益も増えている。
		輸送業（管理会計担当）	受注量や販売量の動き	・地元の荷動きは引き続き低迷気味であるが、都市部からの荷物は回復傾向にある。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者からの話では、少しずつ動きが出てきているということである。
		繊維工業（総括）	受注価格や販売価格の動き	・受注は回復基調にあるものの、原材料価格の高騰が収益を圧迫している。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上高は変わらないまま推移している。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・東南アジアでの新型コロナウイルスの感染拡大と半導体不足等による自動車生産停止の影響で、今一つ回復に力強さが欠ける状況が続いている。
		精密機械器具製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・海外の販売状況は欧米中共に良くなってきている。しかし、国内においてはようやく緊急事態宣言が解除されたものの、まだ時間がたっており、今後の市場や客の動きを注視している状況である。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・販売量を参考にしているが、最近では余り変化がみられない。ただし、10月以降は緊急事態宣言解除の恩恵があり、若干医療系機関からの注文が増加しているようにみえる。
		司法書士	取引先の様子	・複数の事業譲渡や、助成金を受けての新規事業関連の依頼がある一方、事業廃止や法人破産の相談もある。
		輸送業（役員）	取引先の様子	・燃料高である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除され、取引先の売上回復を期待しているが、原油や資材価格が高止まりして原価が先行して上がっており、利益率は低下している。
		税理士（所長）	取引先の様子	・観光業や飲食業の取引先では、新型コロナウイルス感染症の終息に伴い大分復活している。医療品、アパレル関係も良いようにみえるが、製造業、特に自動車産業の下請関係ではアジアから部品が輸入できない影響が大きくなっている。半導体以外にも細かな部品が輸入できず、受注があっても生産できないという厳しい状況である。
	x	-	-	-
雇用 関連 (北陸)		-	-	-
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人希望の新規派遣先が増加している。また、既存の要員に加えて更に1人増員といった傾向も少しずつ増えてきている。
		新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等の解除で、一切動きがなかったレジャーや旅行業界から大きな動きが出てきたという声が上がりは始めている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・今月に入ってから少しずつではあるが、求人広告に動きが出始めている。来春に向けた定期採用の内容もみられるが、一部の原稿では、事業拡大につき増員募集といった文言も使われるようになり、やや景気の上向きを感じている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数に大きな変化がみられない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と比較して、新規求人数の変化がほとんどない。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・短期以外は落ち込んだままで、新規求人の動きが少ない。新型コロナウイルス感染症が終息し、求人数が増加に転ずることを期待している。
		-	-	-
	x	-	-	-

## 8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (近畿)		百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が小康状態になるなか、緊急事態宣言の解除や気温の変化もあり、中間層の客が大きく動き出してきた。行動範囲の拡大により、婦人服のボリュームゾーンや婦人雑貨が2年ぶりに良い動きとなり、それとの買い回りの効果で、菓子類や総菜も好調な動きとなった。また、富裕層向けの特選品や海外の高額衣類、宝飾関係も堅調に推移している。
		百貨店（外商担当）	来客数の動き	・前週末の来客数は、コロナ禍の発生前に近いレベルに戻ったと感じる。
		百貨店（服飾品担当）	単価の動き	・緊急事態宣言の解除が9月末に報道されてから、徐々に客足は戻り始め、前年の今の時期と変わらない入店客数となっている。都心店舗、郊外店舗共に、売上も前年を上回っている。都心店舗はラグジュアリー関連がけん引し、郊外店舗はフード関連がけん引する構造となっている。客からはワクチン接種が終わり、ようやく自由に買物ができる安心感が出てきたという声が多い。新型コロナウイルスの新規感染者数の減少とともに、今後は更に来客数が増える。
		一般レストラン（企画）	販売量の動き	・10月に入り、売上の前年比がほぼ100%に近づき、前々年比でも同様の水準に戻ってきている。ただし、深夜営業の再開に向けて、雇用の確保が厳しい状況となっている。すぐには再開できないため、前年比で100%を超えるには、まだしばらく時間が掛かる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除で人流が増加し、観光地にも人が訪れるようになってきた。さらに、当県では旅行に地域割クーポンが利用できるため、景気の回復に寄与している。
		旅行代理店（役員）	来客数の動き	・当県での県民割事業が限定的とはいえ開始したため、来客数が急激に伸びてきた。ただし、県境をまたぐ旅行の需要はまだ戻ったとはいえず、販売価格は伸びていない。
		観光名所（経理担当）	販売量の動き	・7月と比較すると、10月は観光バスでの来場や修学旅行の団体客がみられ、販売量以上に来客数は増えている印象を受ける。
		競輪場（職員）	単価の動き	・緊急事態宣言が解除されて上昇したのか、3か月前の客単価は1万1450円であったが、今月は1万2685円となっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・10月中旬以降は人出が増えている。ただし、客足の引きが早い点は変わらない。
		一般小売店 [花]（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除により、徐々に得意先からの発注が増えている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・緊急事態宣言が完全に解除となった。30日までの来客数は、前年比で3.1%減少とやや少ないが、土日の入店を含め、月末にかけて急速に回復してきた印象を受ける。この状態が継続できれば、年末にかけて本格的な景気の回復につながる。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月から緊急事態宣言が解除され、来客数は増加傾向にある。食品フロアでの店舗のリニューアルオープンもあり、売上は前年の実績を確保できそうである。また、自宅で正月を過ごす傾向が続いているため、おせち料理の予約状況も好調に推移している。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、全国的に新型コロナウイルスの新規感染者数も減少傾向にあるなか、来客数が明らかに増加している。ようやく外出できるようになったという客もみられ、消費意欲の上昇がうかがえる。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・10月に入り、来客数が前年を上回るようになってきている。買上が劇的に増えているわけではないが、街はかなり活気付いている。
		百貨店（営業推進担当）	来客数の動き	・店頭でも、客との前向きな会話が増えている。
		百貨店（販促担当）	来客数の動き	・外出に関してはコロナ禍の影響が薄れ、街に人出が戻ってきている。前半は高い気温が影響し、購買の動きは鈍い状況であったが、後半は気温が大きく低下し、衣料品も活発に動き出している。イエナカ関連だけでなく、消費全体が活発化し始めている。
		百貨店（特選品担当）	来客数の動き	・3か月前は緊急事態宣言の発出中であったが、10月に入って解除された。新型コロナウイルスの新規感染者数も減少し、来客数は明らかに増加している。
		百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・月後半に入って、緊急事態宣言の解除後の移行期間が終了し、来客数や売上などが前年を超えるレベルに回復してきた。ただし、コロナ禍前のにぎわいには程遠く、購買も本当に必要な物に限るなど、堅実な様子が見られる。
		百貨店（宣伝担当）	来客数の動き	・ようやく緊急事態宣言が解除され、月末には時短要請も全面解除となったことで、客足がかなり戻ってきた。飲食店の営業時間が長くなり、特に平日の夕方以降は、会社帰りの人出が増えている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食品については、大きな変化が感じられないが、衣料品では明らかに外出需要とみられる動きがある。特に、上着などのアウターやバッグなどの服飾品が上向いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除で外食が増えたのか、来客数は維持しているものの、客単価は下がっている。その分外食が増えていると推測され、周囲の飲食店も営業が活発になってきている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・レディースを中心に、高単価の洋服や服飾関連が売れ始めている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除で、近くの飲食店やビジネススクールなどの営業が解禁となり、日中の人通りも戻ってきた。来客数は昼間が3か月前と比べて7%、夜間は25%ほど増加している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・居酒屋への時短要請が解除になったため、客が少し動き出したと感じる。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除でやや良くなっている。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・コロナ禍が少し落ち着き、外出する人が増えている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・10月初旬は若干の持ち直しにとどまったが、その後の飲食店への各種制限が解除されたタイミングに合わせて、当店の来客数も前々年並みに持ち直している。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除、時短営業の解除によって人が動き出す。年末にかけてボーナスが支給され、購買意欲も上がるため、来客数に動きが出てくる。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除に伴い、来客数が回復してきた。特に、電気料金の値上げに伴い、暖房対策として省エネタイプのエアコンの販売量が伸びている。
		家電量販店（人事担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除により、外出に意識が向かうようになり、販売量が少しずつ伸びている。また、気温が急に下がったことで、電気ストーブやファンヒーターなどの暖房器具の売行きが良くなっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除となり、少しずつ消費が戻ってきたように感じる。
		乗用車販売店（営業企画）	販売量の動き	・徐々に来客数が増え、前年比で5%増加している。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・時短営業と酒類提供の停止要請がなくなった25日以降、明らかに予約数が増えている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除される前から、深夜の営業を続けてきた店舗は、今も全く影響なく客が入っている。一方、自治体の要請を守っている店舗は、まだまだ元に戻っていないが、20日からはキャッシュレス決済のポイント還元が始まり、昼間はその効果で若い客などの来店が増えている。
		観光型ホテル（客室担当）	来客数の動き	・徐々にではあるが、客が増えている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除や、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により、予約は非常によく動いている。
		都市型ホテル（管理担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除されて、来客数が増えてきている。
		都市型ホテル（フロント）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除もあり、ビジネス関連の需要回復が著しい。ただし、レジャー利用の回復はまだまだであり、今後のGo To Travelキャンペーンの再開に期待している。
		都市型ホテル（総務担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除に続き、飲食店への一部の規制は残るものの、徐々に緩和されていることで、これまでに比べて来客数が大きく増えている。今後、自治体による観光推進策の実施で、更なる利用が期待される。
		都市型ホテル（管理担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少や、緊急事態宣言の解除により、宿泊の予約が徐々に増加しつつある。レストランもアルコール類の提供が可能となり、ディナータイムの売上がやや増加しつつある。
		都市型ホテル（販売促進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除になり、今月は宿泊の稼働率が20%台から40%台に回復した。ただし、一気に上昇したわけではなく、様子見的なところもある。レストランは緊急事態宣言の解除とともにディナーを再開したが、動きは余り増えていない。一方、ランチは土日の来客数は少ないものの、平日は1日の平均来客数が前月よりも115%増加している。
		都市型ホテル（客室担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除により、来客数が増えつつある。秋の紅葉シーズン到来に向け、京都の観光需要は週末を中心に回復してきている。
		旅行代理店（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除や、飲食店での時短営業の緩和、旅行の県民割の開始もあり、来客数が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・当地域の県民割による旅行の申込件数が増えている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除となり、10月からは客の間に安心感が広がっているが、まだ恐怖感があるのか、夜の飲食の客は少ない。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が一時的に落ち着いており、消費の回復の兆しが出てきつつある。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたことで、観光客の動きも回復しつつある。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	お客様の様子	・来客数の改善はみられるが、力強さに欠ける。以前のようにゆっくりと買物を楽しむというよりも、大勢の客が集まる施設では、短時間で目的の買物を済ませる人が多い。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除を受けて、外出の意欲は上昇している。
		美容室（店員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、来客数が増加している。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・客からの相談案件が増加しつつある。
		住宅販売会社（総務担当）	来客数の動き	・契約件数は変わらないが、客の動きが活発化し始めている。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	お客様の様子	・不動産価格の変動は余りみられない。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に関する報道が増えたほか、当社社員のワクチン接種率もほぼ100%となり、営業の予定が組みやすい状況になった。客からのコロナ禍関連での訪問キャンセルは、ほぼなくなっている。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・今月はかなり忙しかったわけではないが、全く誰も来ないわけでもなく、淡々と1か月が過ぎた印象を受ける。売上が厳しい状況は変わらないが、売上にはつながらなくても、来客数がゼロの日がなかった点は好材料である。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	販売量の動き	・東京オリンピックが終わり、新型コロナウイルスの感染状況も収束、衆議院選挙と進んでいくなかで、景気は上がらない気がしている。今後は不安な要素の方が多く、購買意欲も低い状態が続くと感じる。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	それ以外	・売上ペースでは、前年比で2%程度アップしている。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減っているせいか、以前よりも少しは人通りが増えてきたと感じる。ただし、販売量は数か月前と変わらず、依然として厳しいままである。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	お客様の様子	・飲食店やゴルフ場の取引先が多いが、飲食店関係は緊急事態宣言の解除から間もないため、様子見で少しずつしか動いておらず、まだまだ本格的な回復は見られない。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で外出の機会が減り、着物を着てのお茶会なども再開されていないため、来客数がかなり減少している。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・コロナ禍の影響が続き、販売量に回復はみられない。前年と比べれば徐々に上向いているとは感じるが、手放しでは喜べない状況である。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月は売上目標が未達で、前年比でも微減の見通しである。緊急事態宣言が解除され、来客数は少しずつ戻りつつあるものの、月前半は気温が高く、アパレルを中心に秋物商材が不調に終わった。月後半は秋物商材の動きが回復したが、これまでの減少を取り戻す勢いはない。リベンジ消費に期待を掛けているが、動いているのは限られた商品のみである。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言解除後の10月の売上は、前月に緊急事態宣言が解除された7月に近い動きとなっている。8～9月と比べると大幅な改善傾向がみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売推進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたが、Go Toキャンペーンなどの施策もなく、回復の動きは非常に緩やかである。
		百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・来客数を前年と比較すると、ほぼ横ばいで推移している。緊急事態宣言などで封鎖していた入口を、客の利便性の観点から開放したが、その影響もほとんど感じられない。今までと変わらず、目的のある客が来店する状況が続いている。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数がかなり減っているものの、来客数はまだ前年の水準に戻っていない。高級時計や海外ブランド品は好調であるが、婦人服や紳士服などは売上が落ち込んだままである。
		百貨店（商品担当）	来客数の動き	・10月に入って緊急事態宣言が一斉に解除され、対象外であったエリアも含めて、来客数が増加している。ただし、消費税増税の影響で不調であった2年前の実績には届かず、着実な回復とはいええない。売上も前年の水準は上回りつつあるが、目標には届いていないなど、購買行動も戻ったとはいええない。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・今月の来客数は前年比で3.5%増えており、8月の7.0%減少や、9月の4.7%減少に比べて改善傾向にある。ただし、コロナ禍前の2019年と比べると、約12%減少している。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・緊急事態宣言の解除、新型コロナウイルスの新規感染者数の急減で、着実に来客数が増えてきている。原材料高による商品の値上げはあるが、買い控えはなく、客単価も改善傾向にある。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・客のディスカウント志向が強まっているようで、売上に占める特売比率が高くなっている。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されて外出が増え、外食需要も増加しているが、売上に大きな変動はない。巣籠り消費の動きは、すぐには変わらない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除となったが、企業の在宅勤務やリモートワークは定着している。若干の改善はみられるものの、日中の労働人口は相変わらず低い水準で推移している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言も解除され、場所によっては人の動きが増えたが、店の売上に直接反映されていない。分野によっては、緊急事態宣言の解除が売上の増加につながるが、実感としては店舗の様子に余り変化がない。
		コンビニ（店員）	単価の動き	・まとめ買いの客は減っているが、飲料水やたばこなどを単品で購入する客が増えており、来客数も増えている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・緊急事態宣言下の3か月は家電の売行きが悪く、解除後の見通しも立たない。人の流れは増えた印象であるが、来客数の増加はみられず、今後も当面は変わらない。
		住関連専門店（店長）	それ以外	・9月頃から徐々に客は戻ってきているが、海外の仕入先が大幅な値上げを通知してきた。現状は販売価格を上げにくく、利益率の低い状況はむしろ悪化している。
		その他専門店 [宝石]（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が収束しつつあったが、今度はガソリン価格の高騰で、様々な物価が上がってきている。
		その他専門店 [ドラッグストア]（店員）	来客数の動き	・前年の水準は上回っているが、来客数は伸び悩んでいる。1人当たりの単価や買上点数も、依然として低水準であり、対策に苦心している。新型コロナウイルスの感染が落ち着きをみせ、感染対策の商品が余り売れていない影響が出ている。
		その他専門店 [スポーツ用品]（経理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言は解除されたが、飲食業の来客数は元の水準には戻らない。新型コロナウイルスの感染第6波の発生や、新規感染者数の増加を心配する人も多いため、景気の底上げには到底結び付かない。
		その他専門店 [宝飾品]（販売担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減っているが、緊急事態宣言の解除後の再拡大防止のための制限期間中は、まだ客足に変化はない。
		その他専門店 [医薬品]（管理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除により、景気回復が期待されるが、まだ来客数の増加にはつながっていない。それに伴い、販売量の増加もみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 [ガソリンスタンド] (経理担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除や、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少によって人流が増え、週末を中心にガソリン販売量は増加傾向にある。その一方、このところの原油価格の高騰もあり、景気が良い方向に向かっているとは言い難い。
		その他小売 [インターネット通販] (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染症対策に慣れ、新たな買物のスタイルに変わってきている。
		その他小売 [インターネット通販] (オペレーター)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの関連商品の受注が落ち着き、例年どおりの販売が続いている。
		その他飲食 [自動販売機 (飲料)] (管理担当)	販売量の動き	・なかなか上向きの状態にならない。
		旅行代理店 (支店長)	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、もう少し旅行の申込みなどに勢いが出るかと期待していたが、まだまだ伸び悩んでいる。客からは、Go To Travelキャンペーンなどの支援策が始まるまでは申込みを控えるといった声もあり、一刻も早い再開が望まれる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が収束に向かいつつあるものの、客の乗車機会は減少したままであり、流し営業での営業収入は、コロナ禍以前の5～6割の水準のままである。
		タクシー運転手	来客数の動き	・タクシーの稼働台数は元に戻りつつあるが、その割に客単価が低い。駅での客待ちについては、まだ終電後の客が少ない状態が続いている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今のところは不透明であるが、良くなることを願っている。
		美容室 (店長)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、少し予約が戻ってきているが、動きは弱い。
		住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・7月頃から、建材や住宅設備等の値上げラッシュが始まっており、燃料費も上がり始めているなど、住宅関連の原価は上がったままである。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・新築分譲マンションの販売は好調な状況が続いており、在庫が減少している。一方、新規供給物件の事業用地の取得競争が激化している。
		その他住宅 [展示場] (従業員)	販売量の動き	・住宅展示場の来場者数は前年並みであるが、事前に予約してのモデルハウス見学が常識となりつつあるため、今までのような集客イベント頼みとは異なる。
		その他住宅 [情報誌] (編集者)	お客様の様子	・富裕層の消費行動に強さがみられる。希少性の高いマンションなどへの引き合いは強く、価格の上昇にも余り抵抗がない。一般の実需層の動きも、弱含んではいるが堅調に推移している。ウッドショックの影響も弱まりつつある。
		スーパー (店長)	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除後は、食品の売上が落ちてきている。
		スーパー (店員)	販売量の動き	・天候の安定で野菜の値段が下がり、客も買いやすくなったが、客単価が下がっている。果物も、柿やみかんの価格が安く、3か月前よりも客単価が下がっている。
		スーパー (企画担当)	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除に伴い、家庭内での食事に関する特需が徐々に減っている。日持ちのする備蓄商材や米飯、レトルト、乾麺などは販売数量が減少し、総菜も同様に減少している。
		スーパー (企画担当)	販売量の動き	・コロナ禍による自家需要が減少し、日用品や園芸、自転車などの動きがコロナ禍前の水準に戻ってきている。
		スーパー (販売促進担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除による外食需要の回復に伴い、コロナ禍で続いていた中食、内食需要の増加に鈍化がみられる。特に、首都圏を中心とした都市部で、その傾向が顕著となっている。
		スーパー (社員)	単価の動き	・前月から今月にかけて、コロナ禍が急速に収束に向かうなか、休業や時短営業が多かった飲食店の状況が、通常に戻りつつある。このため、これまでスーパーで獲得できていた売上が、飲食店に流れつつあると感じる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月は緊急事態宣言が解除されたが、まだ人の流れの変化は感じられない。それ以上にたばこの値上げの影響が大きく、たばこの売上が戻らないため、売上全体に影響が出ている。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・10月はまだ緊急事態宣言の影響が残っていたのか、余り来客数が伸びていなかったと感じる。ただし、旅行者やグループでの来店が、少しずつではあるが確実に増えてきたと感じる。
		家電量販店（経営者）	それ以外	・半導体不足と東南アジアのロックダウンの影響がまだ残り、商品の入荷が安定せず、売上が伸びない。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・客が希望する価格であれば検討するなど、指値のような商談が今まで以上に増えてきた気がする。さらに、飽くまで検討であり、即決はしないという、以前には余りなかった商談となっている。ただし、指定される商品は、インターネット上でもよく目にする商品の場合が多く、傾向としては新たな値引きを引き出し、安く買うことを重視していると感じる。
		通信会社（企画担当）	それ以外	・原油価格の高騰に始まり、様々な物の値段が上がっている一方で、収入は上がらない。また、中国経済の変調で株価が安定していないこともあり、景気の先行きに不安を感じている。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されても、会合のほか、友人同士の多人数での外出や会食は自主的な自粛が続いているため、来客数は落ち込んだままである。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数が少ないため、ショッピングセンターなどの売場が閑散としている。売りたいお客が来ないと売れない。
	×	乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・輸入車業界は、半導体の影響で生産面での制約があり、入荷がかなり減少している。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、様々な制限はあるものの、今月からは飲食店への来客数が回復すると期待していたが、スタートとしては鈍い。利用者側にも、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に対する不安もあるため、本格的な外食産業の回復にはまだまだ時間が掛かる。
企業 動向 関連  (近畿)		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・広告はWeb媒体、紙媒体共に、前年の売上を上回っている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、今まで受注が止まっていた取引先から、少しずつであるが注文が入ってきている。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・全国的にも各種の制限が解除になり、人の流れも増えている。飲食店向けの売上も、少し増加傾向にあると感じる。
		繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の解除により、受注がやや増えてきている。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍が落ち着きをみせ始めたことで、経費を何でも削減するのではなく、必要な経費は使っていくという傾向が感じられる。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年は新型コロナウイルスの悪影響を受けたが、今年は半導体関連の活況に助けられ、売上は前年比で30%超の増加が続くなど、これまでは典型的なK字回復となっていた。ただし、いつまでも前年との比較を続けることには違和感もあるため、これからは将来を見据えていきたい。なお、最近の月次の景気は横ばいで推移している。
		輸送用機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・搬送設備の新規生産ラインに関する問合せや、引き合い件数が増えている。
		金融業（営業担当）	それ以外	・緊急事態宣言が解除となり、全ての動きが変わるため、良い方向に動くことを期待している。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の解除が決まり、10月以降の交通関連の広告出稿が少し上向いている。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除され、少しずつ現状に対応した動きが出てきている。取引先の飲食店では、以前の7割程度の客しか戻らないと想定し、今後どうしていくかを考えている。また、呉服店に至っては、産地が反物を生産していないため営業ができず、各種支援金で食いつなぐ状況が続いている。全く楽観できる状態ではないが、少し人が動き始めたことで、店も動き出している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言は解除となったが、状況はこれまでと変わらない。石油価格の高騰で材料価格が値上がりしたため、販売価格の値上げ交渉を開始している。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・国民の7割程度がワクチン接種を完了し、新型コロナウイルスの新規感染者数も減少傾向にあるため、緊急事態宣言が解除となった。ただし、受注量や販売量の動きに大きな変化はなく、景気回復の実感はない。感染の抑制傾向がしばらく続けば、受注量や販売量が増加し、景気回復に実感が出てくると予想されるが、現状はまだ不透明である。
		金属製品製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・物の動きは悪くないが、原材料価格の急激な値上がりに対し、販売価格への転嫁が進まない。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・この1年は引き合いや売上が激減しており、今月もその状況は変わっていない。
		一般機械器具製造業（設計担当）	受注量や販売量の動き	・受注量については上向いているが、原材料費などのコストの上昇で、少々厳しい状況である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・売上、受注共に横ばいである。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除となったが、実売の推移に大きな変化はない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・良くなることもなく、悪くなることもない。ただし、リモートワークなどの影響もあるのか、全体的に客との接点が少なくなったと感じるほか、社内でもコミュニケーションが取れていない。その影響が受注面に出ているのかもしれない。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・日本だけでは解決できない原材料価格の高騰や、コロナ禍による海外工場の休業で、完成品が生産できない状況が深刻である。建設資材の高騰や、製品不足による納期の問題により、予算や工期に悪影響が出ている。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・ワクチンの接種率も上がっており、少しずつ外出が増えている。ただし、回復している実感はない。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・コロナ禍は一定の落ち着きをみせているが、政府も企業も疑心暗鬼となっている。この1年数か月で疲弊しきった中小企業の経営者が、悪影響を抱えたままで従来のような流れに乗っていけるかは、難しいところである。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・主要な駅では、乗降客数が前々年比で約70%まで回復したものの、駅ナカ店舗の売上は約65%と、消費者の購買意欲は回復していない。ただし、10月中旬以降は気温の低下が進み、冬物商材が売れ始めたため、今後の回復に期待している。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注は入っているが、状況は余り良くないままである。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・引き合いは増えているが、取引の数量が減っている。また、材料の入荷遅れなどから、受注しても納品できない状況である。
		繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の解除後は、催事などでの販売の機会も増えてきたが、その多くは消費者向けの販売会である。地方への出張が増えた割に、売上はコロナ禍前の20%減少となっており、回復するまでには時間が掛かる。
		化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・自動車の生産減少により、電装関連の出荷が減少してきている。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規案件が減少している。海外調達の部品が入手できないため、動きが悪い。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍による半導体不足、海外からの部品の入荷遅れなどで、自動車関連業界の工場稼働率が大幅に落ちている。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・新築、リフォーム共に、客の予算が減少気味である。
	×	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・木材の価格が高くなっているほか、海外でのロックダウンの影響により、商品が入荷しない状況が続いている。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	不動産業（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言は解除されたが、景気は悪いままである。企業が店舗や事務所を借りて、設備投資をしようという環境になっていない。それに伴って空室率が上がり、事務所の賃料が下がっている。
	x	その他非製造業【電気業】（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染の収束時期が見通せない。
雇用 関連 (近畿)		*	*	*
		人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・緊急事態宣言の解除により、朝の通勤電車も混み始めている。また派遣の依頼件数も前年実績を上回り、コロナ禍前の9割程度に戻ってきている。特に20～30代の求人数は多く、求職者がなかなか見つからない状態である。
		人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・緊急事態宣言の解除により、明らかに人出が増えてきている。今後は消費に勢いが生まれると予想される。
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・ここ数が月は求人数の伸びが鈍化していたが、10月はかなり回復している。
		新聞社【求人広告】（営業担当）	それ以外	・緊急事態宣言の発出中と、解除後を比べると、景気は良くなっている。
		新聞社【求人広告】（管理担当）	求人数の動き	・新聞求人の状況は、構造的な問題もあり低空飛行が続いている。ただし、新型コロナウイルスの新規感染者数や重症者数も激減し、緊急事態宣言も解除されたため、今まで大きなダメージを受けてきた飲食や旅行、観光などの業界では、本格的な回復に備える動きが見られる。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・各種制限の解除により、雰囲気的には回復に向かっている。コロナ禍前の水準には戻っていないが、印象は良い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で5か月連続の増加となっており、回復基調にある。ただし、2年前との比較では2けたの減少が続いており、まだコロナ禍前には戻っていない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・内定が解禁となり、今年度の採用の充足状況や、次年度の新卒採用予定が徐々に明らかになってきた。今年度の充足状況は、前年と比べて未充足や採用継続中の企業が多く、今後の求人の増加が見込めそうである。次年度の採用予定数も増加傾向にあり、コロナ禍による採用減は短期的な動きであったようである。ただし、求職者である学生の動きが鈍いため、マッチングがうまくいっていない。
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・下半期に入ってから、派遣業界は好調を維持している。1～3か月の単発とみられた案件も、ほとんど年度末まで延びそうで、下半期は好調が維持できそうである。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・下期に入り、一旦求人数は落ち着いている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・大阪でのハローワークの新規求人数は、前年比で0.8%の増加と3か月連続で増えた。主に製造業や情報通信業、その他のサービス業で増加したが、卸売・小売業、宿泊・飲食サービス業では減少となり、弱い動きが見られる。一方、新規求職者数は前年比で0.4%の増加と3か月連続の増加となった。解雇などの会社都合の離職は5か月連続で減少したものの、在職者や自己都合の離職者の増加が続き、休業中に転職活動を始める人や、先行きの不安を感じて自ら退職する人もみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年並みで推移している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求人数は依然として底堅く推移しており、製造業の一部では改善がみられる。
		学校【大学】（就職担当）	それ以外	・週に4日間、1府2県をまたいで通勤しているが、緊急事態宣言の解除後は、人の流れが大幅に増えている。ただし、商業施設での動きを見ると、人の気持ちは消費に向かうまでには、もう少し時間が掛かる。
		新聞社【求人広告】（担当者）	それ以外	・コロナ禍の影響がまだまだ残っており、関西の地元企業からの新聞広告は、依然として厳しい出稿状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスによる特需で、求人数や求職者数が増えていたが、一旦落ち着いている。通常の派遣求人のみになり、求職者数も減少している。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・コロナ禍の発生前と比べると、事務系の求人数が少なくなっている。コロナ禍の影響が小さい業界では、変わらず求人の動きが続いているが、全体的にはトーンダウンしている。
	x	-	-	-

## 9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (中国)		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除に伴い、時短要請やアルコール提供制限も全面解除され、大学などの対面授業も始まったため、駅周辺の人出が格段に多くなっている。飲食施設や観光施設などの営業も通常に戻り、宿泊の需要喚起策の再開で、観光客の先行予約も増加している。宴会需要の変化は余りないが、キャンセルは減少している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・売上は増加していないが、新型コロナウイルスの感染が落ち着き、人の動きが出てきて、来客数も増加している。
		商店街（理事）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、客が買物や外出を控えていたが、新型コロナウイルスが少し落ち着いてきたので、景気がやや良くなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・人出が増え、客の購買意欲も回復している。
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	単価の動き	・売上にはつながっていないが、客の動きが徐々に良くなっている。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	来客数の動き	・既存客が戻り、新規客も出てきている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、緊急事態宣言が解除されたため、来客数は前年に届かないものの、前月と比べると改善している。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少と気温の低下が重なり、月半ばより衣料品を中心に状況が大幅に改善しつつある。
		百貨店（外商担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種の効果で新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に減少してきたため、来客数が増加し、客の購買意欲も上昇している。
		百貨店（営業企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少と冷え込みが重なり、婦人衣料を中心に売上が回復傾向にある。各地でイベントも開催されるため、年末商戦に向け期待できる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数が上向いており、客単価も高水準が続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除以降、各種イベントや行楽等の増加や気温の低下の影響で、衣料品を中心に、客の買上点数が増加してきている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスが落ち着いてきて、来客数や来店頻度が増加している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・9～10月にかけて来客数が回復してきている。
		コンビニ（支店長）	お客様の様子	・明らかに週末の来客数や売上が増加している。
		コンビニ（副地域ブロック長）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、イベントが再開し、旅行者が増加しており、緩やかではあるが、朝や昼を中心に来客数が回復している。
		衣料品専門店（代表）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除で、今まで外出を自粛していた客が来店するようになっている。旅行や観光などを計画している客もいるので、今後も新型コロナウイルスの感染が落ち着いた状態が続けば、売上の改善が見込まれる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除で、景気はやや良くなっている。
		その他専門店 〔土産物〕（経営者）	来客数の動き	・県の旅応援割が始まり、個人客が増加し、観光バスも来るようになったため、来客数が増加している。
		その他小売 〔ショッピングセンター〕（支配人）	お客様の様子	・緊急事態宣言や時短要請が解除され、今月は週を追うごとに来客数が増加し、売上也改善傾向にある。新型コロナウイルスの新規感染者数の全国的な減少による安心感からか、広域からの来店、飲食の利用も増えつつあり、現時点で景気は上向きに転じている。
		高級レストラン （事業戦略担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、徐々に客が戻ってきている。自治体独自の観光支援策の開始時には多くの問合せがあり、自粛明けに出掛けたいと思っている客が多くなっている。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・来客数が増加してきており、前々年の水準にはまだ戻っていないが、良い傾向になりつつある。
		一般レストラン （経営者）	お客様の様子	・ディナータイムの状況は良くないが、10月の売上は8～9月と比べ、増加傾向にある。
		一般レストラン （店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されてから客の流れが良くなっている。以前の自粛解除のときよりも客の戻りが早く、ランチタイムに関しては新型コロナウイルス流行前の状況に戻ってきている。
		バー（経営者）	来客数の動き	・営業を再開したため、景気はやや良くなっている。
		観光型ホテル （営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、県民限定の応援割が始まり、来客数が徐々に伸びてきている。
		観光型ホテル （副支配人）	販売量の動き	・県の観光誘客促進事業が始まり、宿泊の予約の問合せが多くなったことや、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少で飲食店の時短営業が解除されたことなどで、昼間の宴会の予約が徐々に増加してきている。
		都市型ホテル （企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後に、県の飲食店営業時間の規制が解除された直後からレストラン利用が増加するなど、人の動きが出てきている。
		都市型ホテル （総支配人）	来客数の動き	・9月末より緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の一斉解除が報道され、予約が増加傾向にある。停止していた自治体支援策の再開により、地元県民だけでなく、関東方面からの予約も動き出している。
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・県を始め各自治体が旅行割引を開始したことで、旅行需要が動き始め、申込みが増加している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ワクチン接種の効果で、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、新型コロナウイルス感染に関わる規制が緩和され、人々の動きが活発になりつつある。現状は選挙の影響が期待したほど景気は活発化してないが、選挙が終わると良くなる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・県内だけでなく、県外からのビジネスマンや観光客の利用が増加しており、夜の外出者も増えている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・夜の街もにぎわいを取り戻し、3か月前よりも景気はかなり良くなっている。
		放送通信サービス（総務経理担当）	お客様の様子	・一時期より利用料金延滞者数や利用料金延滞金額が少なくなっている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除となり、契約商品の単価が上がりがつつあること、休日の外出者が増加していることから、景気に浮揚傾向がみられる。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除で、土日の日中の交通量は格段に増加している。店舗の来客数が回復しているかまでは確認できていないが、商品やサービスへの問合せ件数は3か月前と比べると、増加している。
		テーマパーク （業務担当）	来客数の動き	・客が徐々に戻りつつある。
		観光名所（管理担当）	来客数の動き	・10月にまん延防止等重点措置が解除され、レストラン営業が再開されたが、法要絡みの10名以上の宴席や宿泊申込みが増加してきている。
		住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・様々な制限が解除され、客が明るくなっている。
		住宅販売会社 （営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されて以降、来客数が増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が全国的に減少しており、このまま減少が続けば、商店街の人通りも回復する。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客が商品を見に来るが、購買につながっていない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が少し落ち着いてきているが、警戒感が強すぎて、依然として、経済活動の動きは鈍い。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	来客数の動き	・プレミアム付商品券やプレミアム付商品券に代わるキャッシュレス決済の補助により今月は非常に好調に推移したが、キャンペーン終了後は反動で落ち込みが激しくなる。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・売上は9月末時点累計で令和2年度の売上を下回っている。特に8～9月の売上が悪くなっている。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は下げ止まったが、再び増加する不安がある。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	来客数の動き	・60代より上の世代の来客数が以前よりも減少している。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたが、急激な変化はなく、売上も前年を下回っている。物産展の開催で集客を見込んだが、期待したほどではなかった。観光部門はやや回復傾向になってきている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の解除以降、来客数が回復することを期待していたが、来客数も販売量も増加していない。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除で、にぎわいが戻ると思ったが、来客数は前年割れとなり、売上も伸びていない。気温の変化もかなり影響しており、月の前半は重衣料の動きが鈍かったが、後半からは週末を中心に動き始めている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の減少が続き、回復の兆しがない。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・客単価に変化がなく、好調に推移している。
		スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・前年は地域振興策のプレミアム付商品券の影響で大幅に売上を伸ばしたが、今年はプレミア率が下がり、その恩恵が薄くなっている。ただ、販売点数は維持できている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍で、客が外出を控え、景気の悪い状態が続いている。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、一安心ではあるが、客の消費意欲は冷え込んだままである。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・来客数は改善傾向にあるが、冷蔵庫やテレビなどの大物商材の売行きは悪く、3か月連続で売上の前年割れが続いている。暖房器具が売れ出したことだけがプラス要因となっている。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・来客数が前年の7割程度にとどまっているため、売上も落ち込んでいる。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されても、半導体不足の影響が続き、売上につながらない。また、ガソリン価格の値上げが客の自動車購入意欲に影響を与えている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言は解除されたが、来客数は余り増加しておらず、販売台数も前年並みである。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・10月の販売台数は前年比116%であったが、前年が新型コロナウイルスの影響で悪すぎたので、決して良くはない。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・売上が余り増加することがなく、低位安定している。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言解除後も一般消費者の需要は落ち込んでいる。法人客も訪問営業が激減しているため、営業車のメンテナンスも減少傾向である。また、半導体不足で新車需要も伸び悩んでいる。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、週末の入客が良くなり、少しではあるが、消費が動くようになってきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他小売 [ショッピング センター] (管 理担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、景気も 少しずつ回復するのではという期待感はあるが、来客 数や客の購買意欲は、依然として、下げ止まっている。 。
		旅行代理店 (経 営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少している が、依然として、客に不安が残っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、月の上旬は景気が悪 かったが、少しずつ回復してきている。
		通信会社 (経 理担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、客も慎重になってい るため、景気に変化はない。
		通信会社 (工 事担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が続いているため、景気 に変化はない。
		テーマパーク (管理担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルス関係の制限が解除されたが、新 たな政策が出てこないため、景気に変化はない。
		ゴルフ場 (営 業担当)	来客数の動き	・天候にも恵まれ、直近の予約が増加している。た だ、個人客は増加しているが、コンペがまだ少ない状 況である。
		競艇場 (企画 営業担当)	販売量の動き	・1日平均の販売量に変化がない。
		美容室 (経 営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数がかなり減少し ているが、景気はまだ様子見といった状況である。
		設計事務所 (経 営者)	来客数の動き	・問合せの件数は増加傾向にあるが、来場につながら ず、契約にも結び付いていない。
		設計事務所 (経 営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの流行から現在まで、新築住宅 の引き合いが低迷している。
		設計事務所 (経 営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍で来客数が減少している時に リフォーム工事をしておきたいと考える客もいるの で、忙しくはないが、仕事は途切れていない。
		百貨店 (売場 担当)	販売量の動き	・ブランドの紳士服は売れているが、高額なラグジュ アリーは売れず、景気はやや悪くなっている。
		スーパー (店 長)	販売量の動き	・来客数は増加しているが、販売量が減少している。
		スーパー (店 長)	来客数の動き	・今月に入り、来客数が前年を下回っている。
		スーパー (財 務担当)	来客数の動き	・10月1日のまん延等重点措置の解除により、外食が 増加したため、来客数や売上が前年を下回っている。
		スーパー (販 売担当)	来客数の動き	・客単価が少しずつ低下している。
		コンビニ (エ リア担当)	お客様の様子	・現在、いろいろな物が値上げし、来年にかけても続 くため、客の買い控えが増加する。
		家電量販店 (販 売担当)	販売量の動き	・販売量の減少で、景気はやや悪くなっている。
		乗用車販売店 (営業担当)	来客数の動き	・新型車が投入されたが、来客数はさほど多くなく、 メンテナンスで部品の交換を提案しても、交換を見合 わせる客が多い。
		通信会社 (広 報担当)	来客数の動き	・まだ以前のような人流には戻っていない。
		住宅販売会社 (営業所長)	単価の動き	・資材単価の高騰の影響で、高額商品、高性能商品の 販売が鈍くなっている。ガソリン高騰等、家計直撃の 要因もあり、年末に向け不安がある。
	x	スーパー (販 売担当)	来客数の動き	・寒暖差が激しく、秋商材の販売期間が極端に短く なったため、売上は前年比79.0%、来客数は前年比 89.2%となっている。また、近郊にある当店と同 チェーンの大型店舗がリニューアルオープンしたこと で集客面に大きな影響が出ている。
	x	コンビニ (エ リア担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスや前年8月の競合店の出店の影 響で1年間悪い状況が続いていたが、ようやく競合店 の出店の影響がなくなり、ワクチン接種の進展で新型 コロナウイルスも少し落ち着いてきたため、9月の景 気は前年より良くなっていた。ただ、10月に店の前の 道路で上水道の工事が始まって以降、来客数が極端に 減少している。
	x	その他専門店 [時計] (経 営者)	来客数の動き	・気候等の影響で高齢者の来客数が減少している。
	x	一般レストラン (経営者)	それ以外	・緊急事態宣言が解除されても、人の動きが良くなっ ていない。
	x	美容室 (経 営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で、客の外出が減り、来客数も 減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
企業 動向 関連  (中国)		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今まで良くなかった景気に明るい兆しが出ている。
		化学工業（総務担当）	取引先の様子	・脱炭素の動きが感じられるものの、ワクチン接種が進んだことにより、一定の景気回復基調が見受けられる。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼業向けの大口案件の納期対応も重なり、製造現場は非常に多忙な状況となっている。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・商品構成の見直しにより、電子商取引の需要が増加している。また、荷物が小型化し、多品種多頻度の発送やネット通販の需要も増加している。
		通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・ICT関連やデータセンターに関する引き合いは以前と比べ、増加してきている。取引先も計画どおり動いており、景気は少しずつ良くなってきている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少している状況で、客からの受注量が少しずつ上向きになっている。
		農林水産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、料理屋の営業が再開したが、依然として、活気がなく、まだまだ回復には時間が掛かる。
		食料品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格を引き上げても、それ以上に原料費が高騰しているため、非常に厳しい状況が続いている。
		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、景気は回復傾向にあるが、資材価格、石油製品価格、運送費などのコストも上昇傾向にあり、利益的には厳しい状況が続いている。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注の拡大傾向に陰りが出ている。
		非鉄金属製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・電子材料関係の受注は高位安定、金属価格は高値で推移している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・半導体や電子部品等の供給不足はあるものの、次世代通信規格である5G市場関連の設備投資が増加していることから、売上は堅調に推移している。
		輸送業（総務・人事担当）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているが、景気に変化はない。
		金融業（貸付担当）	取引先の様子	・ワクチン接種が進み、人流や消費が活発になりつつあるが、総体的に企業の業績が回復したとは言い難い。
		金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・世界的半導体不足により、地元完成車メーカーの国内生産が大幅に減少し、系列の地元部品メーカーの受注も3～4割低下している。このため、操業も定時操業に達せず、工場を計画停止する企業も多い。
		会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・コンサルティング案件、特に事業再構築補助金等取得支援分野などが堅調に推移している。アウトソーシング受託案件も人手不足を背景に増加している。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・月の中旬まで真夏の様相で、季節商材の販売がかなり低迷し、中旬以降徐々に回復したが、厳しい状況である。
		金属製品製造業（総務担当）	それ以外	・主原料である鉄スクラップの価格が大幅に上昇している。発生量が少ないため、価格を上乘せしないと購入できない状況である。入手できなかった同業他社は仕事があるにもかかわらず、休業していると聞いている。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・物件数は多く、技術者の空きを考えながらの対応が必要な状況であるが、資材の納期遅延や価格上昇を心配している。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・半導体不足による自動車メーカーの生産の減少や燃料単価の高騰のあおりを受けている。
	不動産業（総務担当）	それ以外	・前月と比べ、来客数や成約件数が微減となっている。	
	×	輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍の現地操業の低下や半導体不足の影響で、海外からの部品供給が滞っているため、客からの受注が大幅に減少している。
雇用 関連		求人情報誌製作会社（広告担当）	求職者数の動き	・採用予算や採用人数が変化していない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
(中国)		人材派遣会社 (支店長)	求職者数の動き	・直近3か月は、求人に対して、求職者の動きが少ない傾向があったが、今月は徐々に動きが出ている。新型コロナウイルスの感染が落ち着いたことで、応募数やエントリー数が増加してきている。
		求人情報誌製作 会社(経営者)	求人数の動き	・飲食店を始めとして、求人数は着実に増加している。
		職業安定所(所 長)	求人数の動き	・新規求人数は製造業で前年同月比5割の増加となっている。これは輸送用機械器具製造業で、ロックダウンの影響によりベトナム工場で生産できず、一時的に日本国内で製造することにした企業が大幅に求人を増やしたためであり、求人数全体でも2割の増加となっている。
		民間職業紹介機 関(求人・人材 採用担当)	求人数の動き	・飲食業やサービス業の求人が徐々に増加するなど、求人数が増加、人手不足感も出始めている。
		その他雇用の動 向を把握できる 者	求人数の動き	・新型コロナウイルスの感染が落ち着きつつあり、今後、飲食業やサービス業の求人数が増加する。
		人材派遣会社 (支社長)	採用者数の動き	・求人数、求職者数共に新型コロナウイルス流行前の水準に戻ってきている。ただ、企業の採用ハードルの上昇などを受けて、採用者数は新型コロナウイルス流行前の7割程度で、今後もこの傾向が続く。
		人材派遣会社 (経営戦略担 当)	採用者数の動き	・新型コロナウイルス感染症が終息し始めているものの、企業の採用姿勢にはまだ大きな変化は現れていない。
		職業安定所(事 業所担当)	求人数の動き	・緊急事態宣言が解除され、新規求人数の増加を見込んでいたが、前年同月比で大幅な増加となっていない。業種別では、建設業、宿泊業、飲食サービス業が減少となっている。
		職業安定所(雇 用関連担当)	求人数の動き	・新規求人数は前年同月と比べ、21.4%増加している。県内宿泊キャンペーンや緊急事態宣言の解除により、予約が入りつつあり、宿泊・飲食業の新規求人数は前年同月と比べ、17.8%増加している。ただ、平日は予約が少なく、前年の予約状況に及んでいないため、本格的に景気が上向いているとは言い難い。
		民間職業紹介機 関(職員)	採用者数の動き	・求人数は増加傾向にあるが、様子見のところがあ
		新聞社[求人広 告](担当者)	周辺企業の様子	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響で、個人消費は百貨店、スーパー、家電のいずれも弱い動きであり、観光の回復ももう少し時間が掛かる。また、自動車も供給力不足で半年ほど様子見となる。
		x	-	-

#### 10. 四国(地域別調査機関:四国経済連合会)

(-:回答が存在しない、\*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
(四国)	家計 動向 関連	百貨店(販売促 進)	来客数の動き	・当店は段階的な店舗のリニューアルオープンを行っており、これまでみられなかった客層が来店している。加えて、当県の新型コロナウイルス新規感染者数が減少しているため、来客数が増加している。
		商店街(事務局 長)	来客数の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の解除により、商店街への人通りが徐々に回復している。慎重な行動を心掛ける人もまだ多いが、気温も急に下がったことから、季節物の動きに期待をしている。
		一般小売店[生 花](経営者)	来客数の動き	・依然として夜間の来客数は少ないが、自粛期間が明けたことにより、開店祝い等の商品を購入する人が増加した。
		一般小売店[書 籍](営業担 当)	お客様の様子	・飲食店への時短要請が全面解除され、第6波が到来する前に、金を使おうという気持ちになっている。
		百貨店(企画担 当)	お客様の様子	・コロナ禍以前の水準までには回復していないが、緊急事態宣言が解除されたことにより、客足が徐々に戻ってきている。
		コンビニ(店 長)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、来客数がやや回復基調にある。
		コンビニ(商品 担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が解除されたことにより、少しずつ夜の繁華街に人が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたことで、来客数が増加している。飲食店の営業も再開しており、新型コロナウイルス発生前の水準までには回復していないが、3か月前と比べると状況は各段に良くなっている。
		その他小売 [ショッピングセンター](副支配人)	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少し、客が少しずつ戻ってきている。急に寒くなってきたことから、冬物の動き出しが例年より早くなっている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・依然として平日は客が少ないが、週末は客足が戻っており、コロナ禍が収束に向かっていると感じる。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・団体旅行が回復しておらず売上は例年の3分の1程度であるが、緊急事態宣言の全国的な解除により、集客は上向きである。
		都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・人の動きがやや良くなっている。
		旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・全国的に緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が解除され、ビジネス客を中心に旅行需要が増加している。また、ネット経由での予約が増加している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・平日の人通りは依然として少ないが、時短営業が終了したことで、週末の夜は人出が少し増えてきた。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大防止のための規制が解除され、街中の店も少しずつ営業を再開しており、週末の夜には人出が増加している。遍路客の仕事も少し入ってきており、以前より状況は良くなっている。
		通信会社(営業部長)	販売量の動き	・来客数は減少しているが、売上は堅調である。景気が良くなればレジャー等の外出により来客数は減少する傾向にある。
		通信会社(社員)	それ以外	・当県の新型コロナウイルス新規感染者数が一時期と比べると大幅に減少しており、街中の人の往来も増加している。また、10月より訪問販売を再開したため、契約者数が伸びてきている。
		観光遊園地(職員)	来客数の動き	・当県独自の新型コロナウイルス警戒レベルが下がり、飲食店等への時短要請が解除されたことで、来客数が増加している。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたことにより、来客数が増加している。
		設計事務所(所長)	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大防止の規制が緩和され、経済団体の会合やイベント等が徐々に始まってきた。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減したこともあり、週末を中心に来街客が増加している。しかし、平日の夕方以降の飲食店にはまだ客が戻ってきていないため、引き続き感染拡大の予防に努めていきたい。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が完全に沈静化したのか、第6波が到来するのかが予測できない。消費行動が新型コロナウイルス発生前の状態にすぐ戻るとは思えず、また、新たな行動変化が起こる可能性が高い。第6波が来た場合は、多くの業界が限界を超えるのではないだろうかと思う。
		一般小売店 [酒](販売担当)	販売量の動き	・飲食店の時短営業が終了しても、客はなかなか戻ってこない。納品量も減少したままの水準で推移している。
		スーパー(企画担当)	単価の動き	・10月に一部の商品が値上がりしたことで、客単価の上昇につながった。また、来客数は引き続き増加したままの状況が続いている。
		コンビニ(総務)	来客数の動き	・当県独自の感染警戒レベルが下がったことにより、状況が改善しつつある。しかし、業績の回復にすぐ反映されるわけではなく、また、コロナ禍で客の購入選択肢が広がったため、来客数が前々年比で大幅に減少したまま戻らない。
		衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・今月の前半までは厳しい状況が続いたが、後半からは気温が下がったこともあり回復基調にある。しかし、依然として新型コロナウイルス発生前の水準までには回復していない。
		家電量販店(店員)	販売量の動き	・黒物家電やパソコンを中心に販売が落ちているが、白物家電の売上が伸びており、全体としては変わらない。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店（従業員）	それ以外	・飲食店への時短要請が解除されたが、客は戻っていない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車受注台数は今月も前年を上回る水準であるが、新車登録は今月も大幅に遅れており、納車までに長期間を要していることから売上は減少している。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症が収束に向かっているとはいえ、来客数は依然として少ない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・来客数は増加しているが、売上の増加には至っていない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少したが、客の様子には特に変化がない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、外食や外出に伴うリベンジ消費が発生している。内食需要が減少しており、新型コロナウイルス特需が薄れてきていると感じる。
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・客が再び外食に戻りつつあり、内食需要が減少している。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・自粛が緩和傾向であることを受け、住宅地に立地している店舗では来客数が減少している。
		衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・売上は、前年比では5%程度のマイナスであるが、前々年比では20%程度のマイナスとなっている。まん延防止等重点措置の期間は落ち込みが大きく、依然としてアパレルに対する消費意欲は上がっていない。
		家電量販店（副店長）	来客数の動き	・来客数の伸びが悪く、気温も高い日が続いたため、季節商材の伸びも悪い状況である。
		乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・半導体不足と東南アジアからの部品が入荷しないため、新車の納期が不透明となっている。
		競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大への不安から、外出自粛が依然として続いており、娯楽遊行やレジャー業界への人流は大きく減少している。ワクチン接種の実施が拡大しているが、客の出控えの意志が強く売上高は減少している。
		×	乗用車販売店（役員）	それ以外
企業 動向 関連  (四国)		税理士事務所	取引先の様子	・取引先の売上状況を確認したところ、上昇の兆しが出ている。
		農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売市場価格は、10月中旬まで低迷が続いたが、10月下旬には産地の切り替わりや新型コロナウイルスの新規感染者数減少を受け、回復の兆しが見えてきた。このため、品目によっては価格への反映もみられるなど、明るい兆しはみえつつある。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月から雑貨専門店やアパレル小売店、インテリアショップ等の取引先からの受注が増加している。一方で、観光地の小売店からの受注は増えているものの以前ほどではない。この1年の推移をみると、新たにネット注文と温浴施設からの発注が活発で、客の消費志向やライフスタイルに大きな変化があったと感じる。
		木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が大きく改善した。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が増加した。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギー関連の事業については、特にバイオマス部門で動きが大きく、売上が増加している。
		建設業（経営者）	それ以外	・公共事業が堅調に推移しており、これまで自粛していた懇親会や勉強会、講習会、レク活動なども再開している。新型コロナウイルスの感染拡大防止のための規制が解除されたことで、人の動きが一気に増加しており、景況感は好転してきている。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、景気が好転している。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・各国政府の経済対策により、市場マインドは上向きつつあるものの、地域的なばらつきが大きく、全体として本格的な需要回復には至っていない。
		電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・ワクチンを保管する保冷庫の需要が一段落し、一過性の特需による注文が落ち着いている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事の引き合いはあるが、当社に合う適当な物件は少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・前月と変わらず、海外向けの輸出が中心の大手企業への販売数量は好調を維持しているが、国内向けが中心の企業への販売数量は不調のままである。
		通信業（総務担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しているものの、社外イベントの開催状況などは見通しが不透明であるため、具体的な変化はまだ感じられない。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先からのヒアリングや提出資料によると、足元の売上や利益の動向に回復はみられず、厳しい資金繰り状況は続いている。
		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症が収束傾向で推移しており、行動制限等の感染拡大防止施策等が解除されたことで、都市部では人流が戻り次第に経済活動が再開しつつあるように見える。しかし、発着する取扱物の状況等の物流動向をみる限り、地方においてははまだ回復を実感できない。
	x	-	-	-
雇用 関連 (四国)		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・一時的なものであるが、新型コロナウイルス関連の特需が旺盛である。
		求人情報誌（営業）	求人数の動き	・中途採用の求人数はこの1か月で増加傾向にあり、幅広い業種で新規求人数が増えつつある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴い、企業活動が再開し始めてきている。
		職業安定所（求人開発）	それ以外	・新規求人数や新規求人倍率が僅かに減少しているが、紹介件数や就職率は上昇している。
		民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・有効求人倍率も前年同時期と比較して向上している。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・学生の内定状況は、前年度と同じ水準まで回復してきている。
		-	-	-
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているものの、派遣の依頼数が減っており景気が悪くなっている。
	x	-	-	-

### 11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)		一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・飲食店への営業時短要請が解除されたことで、飲食店向けの販売量が大幅に伸びている。
		スーパー（統括者）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後の客の行動が活発化に加え、自社の販売促進、独自のこだわり商品の提供という強みが来客数の増加へとつながっている。
		住関連専門店（従業員）	単価の動き	・急な冷え込みにより、高額な秋冬商材が好調に動いている。何より長く続いた新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が解除になり、人流も活発になっており、来客数も好調に伸びている。
		その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少した10月の売上は、新型コロナウイルスの発生前との比較で85%まで回復しており、感染防止策の影響が大きく、3か月前と比較すると良くなっている。
		観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置や緊急事態宣言も解除され、少しずつ客が戻っている。
		観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・コロナ禍が落ち着き、当県独自の宿泊割引キャンペーンが始まり、個人客の動きが出ている。家族での宿泊が大部分であり、まだ家族以外との旅行はとて少ない。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が一旦収束し、宿泊客数が伸びている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの新規感染者数の激減により、昼夜を問わず人の流れがほぼ回復し、タクシー業界の売上は新型コロナウイルス発生前の8割程度にまで回復している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・季節が良くなり、緊急事態宣言も解除されたため、人流や来客数も増加し、売上が増加している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・全国的に新型コロナウイルスの新規感染者数も減少し、人が街に出ている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	販売量の動き	・月の前半は来客も少なく、売上にも大きな影響があり苦戦していたが、全国的な規制の解除に伴い状況も徐々に上向いている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・夏が過ぎて県外産の商品から当県産の商品へと入れ替わっていったことで、単価が安くなり、また季候も良く、新型コロナウイルスの感染が収束してきたこともあり、徐々に客の購買意欲と客単価が増加している。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、人が動き出しているが、以前より動きはまだ鈍い。さらに、魚も少なく、例年であればサバ等たくさん上がる時期であるが、今年は漁獲量が少なく、獲れても魚体が小さい。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・10月末からインターネット販売を更に1箇所追加し、販売量の増加が見込めるため、景気が良くなる。
		百貨店（総務担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後になり、人の動きが出始めている。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、土日は家族連れなど複数での来店が多くなっている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除や新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により、外出自粛や県外との往来自粛が緩和し、来客数の減少に歯止めが掛かっている。感染対策としてダイレクトメールの抑制は継続しているが、物産催事の再開効果で、金土日の来客数が増加し、午前中の買物傾向は継続しており、加えて、午後の店頭への来客数、滞留時間共に回復している。店頭では客の混雑回避、換気等店内環境への関心が強く、感染防止策への協力意見をもらっている。また、県内での旅行やオンライン受注、地元のサテライトショップやギフトショップでの販売は継続しているが、客の外出自粛は継続している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・流行としては、前月までは食品のみの伸長だが、今月は食品に加え、住居余暇関連商品の伸長もある。衣料品関連はまだまだ厳しい状況下は変わらない。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・前年のGo To Eatキャンペーンの効果や今年の天候不順が影響し、前年実績確保は難しいと思われたが、気温の低下とともに秋の催事が好調に推移し、前年並みの売上高確保に貢献している。客の動向として、イベントに対する欲求が高まっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が急激に収まり、客足は増加している。この状態が続けば、売上も増加し、新型コロナウイルス発生前の売上に戻ると期待している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、人の動きが多少良くなっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数の減少や客単価の上昇という傾向になり、売上は前年を少し上回っている。しかし、前年がコロナ禍で売上を減らしており、手放しで喜べる状態には程遠い。コロナ禍が落ち着く方向ではあるが、野菜や果物等の購入が目立ち、買い回ることなく一店舗で買物を済ませる傾向がある。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・行楽シーズンと新型コロナウイルスの新規感染者数減少のタイミングが合い、来客数は回復傾向にある。たばこ増税の影響も限定的である。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除後、ビジネスマンの流れが通常に戻りつつある。また、イベント等が開催されることにより、人の動きに活気がみられる。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・今月に入り、来客数は大幅に減少しているものの、冷蔵庫や洗濯機を中心とした白物家電の単価が大きく上昇しており、多少動きに変化がある。
		家電量販店（従業員）	単価の動き	・売上前年比が103%、客単価前年比が104%となり、1人当たりの購入点数が増加している。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・営業の規制が解除されたことで、店頭に来店する来客数が増加している。前月と比較すると、1～2割程度増加している。
		その他専門店〔書籍〕（副店長）	来客数の動き	・商業施設の閉館以降、来客数の増加に伴い、売上も増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・7月前後と比較して悪くない実績である。一方、7月後半にかけては商圏内で、新型コロナウイルスの新規感染者数が急拡大したことから、数字ほど良くない。10月からの緊急事態宣言の解除が報道されると、当商圏では明確に人の外出は増加し、10月に入ると一層客足が戻ってきている。行政主導のイベントも徐々に解禁しており、今後に期待が持てる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、営業の規制がなくなったため、来場者は増加傾向にある。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今までは人流がなかったが、ここ数日は感染者がいなかったため、県外の観光客や帰省客が少しずつ来店し、来客数が増加している。市内の客の動きはほとんどないものの、居酒屋では少し景気が戻っている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置や緊急事態宣言は解除となり、少しずつではあるが客足が戻りつつある。しかし、外出自粛の影響で家食に慣れた人が多く、外食業界は今後の新型コロナウイルスの感染状況次第ではないかと心配は拭えない。
		通信会社（営業担当）	それ以外	・緊急事態宣言も解除され、繁華街に人のにぎわいが感じられるようになってきている。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・地元客が順調に推移しており、県外からの来場者も徐々に増えている。
		競馬場（職員）	来客数の動き	・予想より少ないもの、来客数が伸びている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・2～3か月前と比較すると、数字はやや上向きである。緊急事態宣言が解除となり、美容業界も景気が良くなる。店舗ではまだ、それほど忙しさは出ていないが、新製品も出ており、これから少しずつ忙しくなる。
		美容室（店長）	お客様の様子	・今まで外出自粛で我慢していた状態であったが、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、また、行楽シーズンとなり、外出が増加している。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・客先の受注引き合いがやや増加し、設備投資計画も僅かながら検討している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス第5波が落ち着き、サービス取消しが減少傾向となっている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に伴い、イベントや展示場への来場者数も増えている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除により、商店街の人出も増加している。夜の制限も解除され、若年層や会社員が会社帰りに飲食店で飲んだり、買物客が多くなるなど景気は良くなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・悪い状況が改善していない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除になったにもかかわらず景気は良くない。緊急事態宣言中の生活リズム、業務形態が確立されてきている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が大幅に減少してきたため期待はしているが、商店街の客層である高齢者の来店減少が続いているため、売上は苦戦している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・当県もまん延防止等重点措置が適用されたことで、解除後も来客数は減少し、売上への影響が続いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・客単価は若干上がっているが、来客数の減少が続いているため、売上高は厳しい。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・ワクチン接種の効果で、新型コロナウイルスの新規感染者数も減少しており、中旬以降の寒さで来客数は回復傾向にあるが、大幅な改善にはつながっていない。第5波の影響が大きかった直近と比較するとよくなっているが、3か月前と比べると大きくは変わらない状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（経理担当）	競争相手の様子	・当市内の大型店4店の7月上高は、前々年比で87.4%である。10月の売上高は、前々年比で88.6%を見込んでおり、やや回復傾向にあるが、飲食の売上は、まだ元に戻っていない。中旬以降、各店とも来客数は増加し、衣料品全般の売上が良くなっている。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が解除となり、行動規制も緩くなったものの、客の慎重な行動は継続している。郊外での人出は戻っているようだが、客は、人混みには行かないようにしており、街中は敬遠されている。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・10月後半に寒さが増し、鍋物食材関連の動きが活発になっている。また、緊急事態宣言の解除に伴い行楽品の売上も持ち直している。しかし、外食増加や家飲み減少により、夕方以降の売上が落ち込んでいる。
		コンビニ（経営者）	それ以外	・緊急事態宣言の解除後も自粛の雰囲気が続いており、来客数は戻らない。個人や家族単位の消費が中心で、催事や行楽の集団での買物はまだ低調である。おにぎりや弁当、サンドイッチ、ドリンク等人の動きに左右される商品は動きが悪い。個人や家族の自宅消費型の総菜や冷凍食品、スイーツは継続して売上は好調である。
		コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・通常は気温が高い日が続くと来客数は増加するが、現状は気温が高いにもかかわらず来客数はなかなか増えていない。そのため、客単価も伸びておらず、プラス1品の買い控えがある。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・規制が解除され、旅行や飲食関係が少しずつ良い方向に向かっているが、衣料品では、客は状況をみているのが実態である。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・緊急事態宣言の解除で売上増加を見込んでいたが、結果は前年比70%程度である。外出の機会が少ないため、新しい洋服は不要のようである。
		衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・気候が関係するファッション業界においては、7月と比較して、気温が高い日が続く、秋物の定価品の動きが非常に悪い月となっている。また、来客数も徐々に増加しているが、まだ様子見であり、買物というよりは散歩のような来店が多く、売上につながらない。
		乗用車販売店（代表）	それ以外	・新車の納期遅延により、中古車相場が上がっている。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・前年に続き、今年も店舗独自の売出しをしているが、販売量は順調である。新規部門も順調であるが、都市部でのキャンペーンは良くない。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除されたが、大手企業は新型コロナウイルスの感染を危惧して、飲酒や会食の自粛をしている。しかし、現在最低の売上のため、これ以上は悪化しない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・徐々に人が動き出し、予約件数は増加しているが、まだまだ変わっていない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの新規感染者数も落ち着いており、かなり遅いスピードではあるが、景気は少しずつ戻りつつある。しかし、冬に向けて、第6波が一番の懸念材料である。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線のエリア拡大がなく、販売量は増加していない。
		通信会社（統括者）	来客数の動き	・携帯電話の販売台数は、前年と比較すると増加しているが、販売単価及びアクセサリ等々の販売が減少しており、10月の計画値よりも減少の見込みである。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・客の様子や競合他社も廃業したことから、新型コロナウイルスでかなりの打撃を受けており、景気は相変わらず悪い。
		設計事務所（代表）	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除されたが、来客の動きは変わらない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が少しずつ収束し始め、客の表情も明るくなっている。
		一般小売店【茶】（販売・事務）	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除されたが、来客数は相変わらず減少傾向にある。売上も伸びていない。緊急事態宣言中にインターネットでの購入に切り替えた客がそのままの購買傾向を継続してしまっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	単価の動き	・食品や生鮮、ガソリン等の商品値上げで、消費者の消費意欲が低下傾向になっている。販売点数が伸び悩み、客単価下落傾向が続いている。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの新規感染者数も激減したことで、これまで巣籠りしていた消費者が、外食や大型商業施設等に足を運んだり、ぜいたく品の購入に金を回したりしている。明らかに来客数が減少し、客単価や購入点数もやや低下気味である。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・10月は核となる商品がなく、例年より売上は伸びない。それにも増して、今年は来客数が少ないため商品の動きが悪く、売上が悪い。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数が低下している。特に自動車業界は、電気自動車の転換期でもあり、客は状況をみている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・メーカーの新車生産がコロナ禍と半導体不足により大幅な減産となっている。自動車販売店にとっては売れる商品がない状況であり、極端な売上不足に陥っている。大変厳しい経営状況が続いている。
	x	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・当県は、まん延防止等重点措置が9月末に解除されたが、まだ会食を控えている企業も多く、客の動きがない。加えて、10月31日に衆議院選挙があり、10月はほとんど動きがない。
	x	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築では、木材や鉄骨等の価格上昇が始まり、他の材料や人件費でも上がっている。また、生活必需品においても価格が値上がりしている。一方、収入は上昇していないため、使える金額は、少なくなっている。
企業 動向 関連  (九州)		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・外食向け貨物の回転率が上昇している。新型コロナウイルスの規制解除が主な要因である。一方、野菜の価格高騰により、肉食向けの調味料関係が思ったほど伸びていない。
		金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・引き合い件数や受注の増加傾向がみられる。新型コロナウイルスの新規感染者数減少が影響したと推測する。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先で新型コロナウイルスのクラスターが発生したが、それが落ち着き、以前の稼働率になっている。集積回路関係の状況が回復しているため、景気は良くなっている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・前月に引き続き、半導体関連客からの受注が好調である。
		電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきたことで、人の交流が増える傾向になり、低迷していたビジネスが戻る傾向にある。
		通信業（経理担当）	取引先の様子	・一時的に新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているが、新たな施策等もみられるようになっている。
		金融業（営業）	取引先の様子	・景気の水準は低位で推移しているが、緊急事態宣言が解除され、飲食店等の営業が再開されたため、徐々に経済が正常化している。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言の解除、また、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により、飲食業や観光業に関しては客が戻りつつある。第6波の心理的な影響があり、動きは鈍い状態にあるが、徐々に回復はしている。特に観光バスは秋の行楽シーズンにより、予約で埋まっている。新型コロナウイルスの感染による予約取消しもあるが、8～9月と比較するとかなり売上は見込める状況である。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・輸送用機械を始めとする一部の製造業では、供給制約に起因する減産が継続しており、地場の部品製造業にも影響が出ている。一方、宿泊業・飲食サービス業を始めとするサービス業は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う下押しの影響は残るものの、緊急事態宣言が解除になり、客足は回復に向かっている。景気は引き続き厳しい状況にあるものの、サービス業を中心に回復の兆しがみられる。
		新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・旅行関連や選挙広告の申込みが増えている。
	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が前月末で解除されたことにより、少しずつであるが受注量が増加している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染が収束に向かい、規制も解除されている。
		経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・時短営業や外出自粛が長引いたが、感染対策がしっかりしているところを選んで客足が増えつつある。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・人材投資を再開する動きが出ている。
		その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・緊急事態宣言も解除となり、企業の動きは戻りつつある。3か月前と比較しても、人流は活発化しており、若干良くなる方向に動いている。
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月の動きは9月に続き、余り良くない。新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しているが、期待していた外食産業も、規制解除が完全でない状態であり、元に戻っていない。また、量販店や冷凍食品メーカー向けも5月と比較するとかなり良い動きにはなっているが、完全に戻っているわけではない。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は順調で、引き合いは強い傾向が続いている。ただ、原料の伝染病の影響が大きい。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で、産地の商社が大変厳しい状態であり、それに伴ってメーカーも受注の減少が続いている。商社は土日の休みに加えて、更に1日休日を増やしたりしたり、社員の出勤を半分にする等の状況が続いている。自社は、ネットでの販売を早く始めたこともあり、前年並みの売上である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月の状況では受注量が増え、少し景気の回復がみえていたが、今月は受注量が落ち込んでいる。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き続き受注が好調である。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	受注量や販売量の動き	・需要はあるものの、生産が追いついていない。少しずつ回復しているが、まだ通常の生産量には足りていない。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・選挙の時期には、例年公共事業への補正予算が計上されるのだが、今回の補正予算は新型コロナウイルスの補助金へ計上され、公共事業には災害復旧費のみでほかにはない。東京オリンピックも終わり、関連の公共事業も皆無の状態では景気は良くなるらない。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年末に向けて輸入が増加する時期であるが、飲食店の回復が経済回復にはつながっていないこともあり、取扱量が増えない。また、消費者の行動が新型コロナウイルスにより大きく変化していることもあり、荷主は様子を見ながら、今後どの商材に注力するか検討している。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・住宅販売に持ち直しの動きが見られ、公共投資も高水準で推移している。一方、百貨店やスーパーマーケット等の売上は弱含みとなっている。また、飲食店等は緊急事態宣言が解除されたとはいえ、期待したほど客足が戻っていない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染状況は落ち着きを取り戻し、飲食店の客足には回復の兆しもみられるが、本格的な売上増加には程遠い。各種催事やイベントも再開されてきているものの、人数制限やオンライン開催への代替等、消費喚起につながりづらい状況である。
		広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・売上や売上総利益共に前年比は上回っているが、特にこの数か月で大きな動きがあるわけではない。
		経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・同業の会合が持てないため情報が入手できないが、特別な動きは見られない。
		繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・最低賃金は上昇しているが、工賃が上がらないため、利益は下回ってくる。交渉はするが、その分の損失は経営者が被るため、事業が何年続くか分からない。
		輸送業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルスの影響で健康食品やプロテインの受注は好調であるが、原料の価格高騰が発生している。中国やベトナムのロックダウンの影響で原料が入手できない状況になっており、売価へ影響が出ている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村の9月補正予算は、ワクチン接種や給付金等の経済対策に当てられており、調査や計画策定等の委託業務に関して予算計上が少ない。このため、追加で受注できる業務が見当たらず、営業できない状況にある。
	×	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・野菜の動きが悪く、市況取引価格が低迷している。重油は価格が高騰し、経営にとっては重要な問題が起こっている。
雇用関連		*	*	*
(九州)		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・緊急事態宣言も解除され、宴会やイベント等の受注が増えている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・例年この時期になると不動産業界の繁忙期対応の依頼があるが、今年は少し早めにそのような動きが出ており、少しずつではあるが、景気も良い方向になってきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・緊急事態宣言の発出時は、求人数が3分の2まで落ち込んでいたが、10月になり回復傾向にある。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言が解除され、一時期はほぼなかった旅行会社や宿泊施設の広告出稿が復活している。GoToキャンペーンが再開されなければ、広告出稿の再開は厳しいとの見方もあったが、2回のワクチン接種者、PCR検査済みの人を対象とするツアーの広告掲載もあり、想定以上の広告出稿がある。当県のみツアーを対象にした助成制度も追い風になっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの第5波も落ち着き、街中にも人出が戻っている。県内の宿泊補助事業等もあり、広告でも旅行レジャー関連の出稿が復活し始めている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・緊急事態宣言の解除後、飲食店では客足が戻ってきている。酒類の注文を中心に売上也回復している。ただ、少人数での来店が多いので、終息宣言のようなものが出ない限り、新型コロナウイルス発生以前のような状態に戻るのには厳しい。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスによる時短営業が解除となり、飲食店等がアルバイトの募集を再開している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数や新規求人数共に前年比20%以上の増加となっている。新規求職申込件数も前年比10%以上の増加となっている。
		民間職業紹介機関（職員）	それ以外	・前年と比べて、4年生の求人増加に加えて、3年生対象の大学内で行われる業界や企業説明会に参加する企業も増えており、特に新型コロナウイルスの影響を受けやすい旅行やホテル、旅客系の運輸業の参加がみられる。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3か月前と求人数はほぼ変わらず、求職者からの問合せ、応募数も変化がない。問合せについては、新規の求職者からではなく、既に当社へ登録済からが多い。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・現在も就職活動をしている学生が一定数いるが、求人依頼件数もあり、年間を通じた採用活動を行う企業も前年度と比較して増加している。また、2023年卒採用に向けたインターンシップを実施する企業も、前年度と比較して増加している。	
	×	-	-	-
		*	*	*

## 12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連		一般小売店〔酒〕（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数も減り、飲食店も時間短縮ではあるが営業できるようになって、売上也伸びている。
(沖縄)		コンビニ（副店長）	来客数の動き	・前月より来客数が増加しており、それに伴い売上也増加している。特に夜帯の来客数と売上が共に伸長傾向である。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少により、9月と比べると来客数増加が顕著である。
		百貨店（店舗企画）	販売量の動き	・緊急事態宣言解除により徐々に人出が多くなっている。食料品を中心に商品動向は回復しているが、宝飾品等の動きは厳しい。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスのワクチン接種効果があって客が戻ってきたので、活気付いている。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	それ以外	・緊急事態宣言解除後より観光客数が増加しており、周りをみると店舗の入替え、建て替えによる建築業の活性化が感じられるが、飲食店舗は酒の提供自粛と営業時間の短縮で、緊急事態宣言中とほとんど変わらない低い売上に終わっている。
		旅行代理店（マネージャー）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、少しずつではあるが予約等が増えてきている。ただ会社の置かれている現状は厳しい。
		住宅販売会社（役員）	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後、県外、県内を含め物件の間合せや内覧希望者も着実に増えつつある。
		スーパー（販売企画）	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除されたが、今のところ買物動向の変化は特にみられず来客数減少、単価上昇が続いている。店舗規模の大きい店舗は好調で小さい店舗は不調の状況も続いている。全体としてはそれが相殺され前年並みとなっている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・予約が若干伸びてきている。
		住宅販売会社（代表取締役）	販売量の動き	・住宅建築に関する相談件数が、増えもせず減りもせずといった状況にある。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除となり、週末を中心に郊外の総合スーパーに客が流れ苦戦する。また、巣籠り需要も減り、買上点数も伸び悩む。
		観光型ホテル（代表取締役）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されて、宿泊は個人客の動きは良くなってきているが、まだ2019年の3割程度である。修学旅行は12月まで全てキャンセルとなり厳しい。飲食に関しては、昼の利用は増えてきたが、夜の宴会は0の状態である。本年中は厳しい状態が続く。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除されたが、客足は鈍いままである。月後半からは新しい料金プランも開始しているが、落ち着いた状況が続いている。コロナ禍の状況下でWebでの手続に客が慣れてしまっていると考えられる。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・現在新型コロナウイルスの影響による営業時間の短縮等も飲食店全体に響いており、大変苦慮している。ここ2～3日で解除されるので、それで少し良くなるかとみている。
	×	観光型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・ホテルの7月の販売室数が前年比58%減少なのに対し、10月の販売室数は前年比72%減少とマイナス幅が大きくなっている。
企業 動向 関連 (沖縄)		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除になり、これまで低調だった観光関連及びホテル向け需要が伸びてきている。
		輸送業（経営企画室）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言解除後、観光業、空港への納品が再開し、徐々に物量も増え始めている。また、外食関係、メーカーや問屋への納品も増加傾向にあるが新型コロナウイルス発生前の物量には戻っていない。宮古島、石垣島といった離島向けの物量は緊急事態宣言解除前と変わらず、離島へ訪れる観光客数は戻っていないと推測される。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・以前から打合せを進めていた客が、やっと契約になる。
		窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は大幅に減少しているが、企業の設備投資が回復するには時間を要すとみられ、見積り、受注は現状で大きな変化はない。
		会計事務所（所長）	それ以外	・コロナ禍は落ち着いているが、景況に好材料となる要素も見当たらない。
		*	*	*
雇用 関連 (沖縄)	×	-	-	-
		求人情報誌制作会社（営業）	求人数の動き	・10月初旬頃から緊急事態宣言解除後の経済活動の活発化に向けて採用活動を再開した企業が多く、月間を通して求人数が増加している。3か月前と比較し、求人数は40%増加している。
		人材派遣会社（総務担当）	それ以外	・緊急事態宣言が解除されて人の動きが良くなり、景気も改善していくのではないかと。
	学校〔大学〕（就職支援担当）	周辺企業の様子	・新卒求人を予定しているとの相談が増えている。政府の支援なども見越して、今後の企業活動が更に活発なものとなりそうである。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・前月と比較して、状況に特別変化はないとみられる。
		-	-	-
	x	-	-	-